
GYAKUTEN
IPPATSU-MAN
SPECIAL BOOK



「待ちに待ってた出番がきたぜ！ここはおまかせ逆転イッパツマン!!」

子供から大人まで日本中のお茶の間を笑いの渦に巻き込んだSFギャグアニメの金字塔「タイムボカンシリーズ」。そのシリーズ第6作『逆転イッパツマン』は、1982年2月13日から1983年3月26日まで全58話のテレビシリーズとして放映された作品である。

この作品は、リース品を運ぶランたちとそれを邪魔するクリーン悪トリオという図式のバックボーンとなるタイムリース社とシャレコーベリースの企業間競争という子供番組としては極めて斬新かつ珍しい題材を採用している。この設定によってメインの登場人物は善悪含めて社会人となり、従来のシリーズより少し大人っぽい年齢に設定されていることでこれまでと一風違った雰囲気のドラマを生み出すことに成功している（ちなみに前5作までの主人公たちは皆、15歳以下）。豪がラン、ハルカ、ムンムンと男女の恋愛模様を匂わせるエピソードが数多く登場しドラマに大きな振幅を与えているのも、この設定の賜物である。

異色といえば、ムンムン、コスイネン、キョカンチンの3悪を通してサラリーマンの悲哀を積極的に描いているのも本作の大きな特徴だ。全支店中最下位の業績のために虐げられる様、単身赴任者のリアルな描写、アルバイトや脱サラなどが妙にリアルに描かれているのが物悲しい笑いを誘う。ムンムンたちが会長の命令でクリーン悪トリオとなり、身体を張ってランたちを邪魔しイッパツマンと戦う様は、現実の企業戦士の姿と大いに被る。あげくの果てにはいつも失敗して、屋台のうえだ屋の親父にクダを巻く始末。そこで「人間やめて何になる」と現実逃避するも、結局最後にはやっぱり人間がいいということになり「明日も頑張ろう」と前向きになるところが、会社にすがるサラリーマンの悲哀を物語っている。従来のシリーズでも3悪はまるで隣人か自分のように思える人間臭いところが人気だったが、現実味が加えられたことでその魅力が増しているのは何とも皮肉な話である。

物語の展開に目を向けてみると、タイムボカンシリーズとしては珍しい大河ドラマ的な構成になっているのが分かる。このシリーズは「偉大なるマンネリ」と称されるように、基本的に1話完結でしかも毎回のお話の流れが完全にフォーマット化されているのが特徴だった。もちろん『逆転イッパツマン』でもそれは踏襲されているのだが、そこに謎と伏線のオンパレードが加えられることによって、作品全体に一つの流れを与えることになったのである。その流れの勢いが時にはフォーマットを凌駕し、いわゆる「パターン崩し」が起こっているのも見逃せない。話の作り方がパターン厳守から、全編通してのストーリーのうねりを大事にし謎を明らかにしていく方にスイッチしているのだ。同時にイッパツマンの敵役として隠球四郎の存在がクローズアップされたのも大きく影響している。ただ、物語終盤で完全に3悪の存在を凌駕してしまったのは、ボカンファンには賛否両論分かれるところでもあった。この大河ドラマ化はシリアス路線への傾向が高まるのに伴い、第30話&第31話の前後編から最終話まで一気に加速していく。このグルーヴ感をぜひ実際に視聴して味わってもらいたい。

他にもこれまでシリーズの歴代ナレーター全てを担当してきた富山敬が主役に起用されたり、植田秀仁（現・うえだひでひと）が監督職（役職名は担当ディレクター）としてシリーズに新風を巻き込んだりと話題に事欠かない作品であった。また、シリーズ前5作のBGM&歌の作詞・作曲を担当した山本正之は本作にも参加。定番の山本節を利かせながらもシリーズ随一ヒーロー色の濃いOP曲『逆転イッパツマン』や挿入歌『嗚呼！　逆転王』は本編のカラーにベストマッチしている。また、ED曲『シビビーン・ラプソディー』も本作の一面であるサラリーマンの有り様をしっかりと歌い上げている。

『逆転イッパツマン』は、長期に渡って制作され続けてきたタイムボカンシリーズの一作として成熟された貫禄を見せつつ、従来のパターンを活かした上で新たな地平を目指した意欲作だ。今回、ボカンファンが渇望していた初の全話ソフト化となったDVD-BOXで、いぶし銀の料理人が作る創作料理のような味を持つこの作品を存分に堪能して欲しい。（本文中敬称略）

●解説：谷澤光一（BEANKIDS）

STORY INTRODUCTION

業界第1位のタイムリース社では、時間と空間を越えて何でも貸し出すタイムリース業務を開始。そのライバル会社であるシャレコーベリース社のコン・コルドー会長は、タイムリース社の信用を落とすため、その運搬業務の妨害工作を全支社中業績最下位のオストアンデル北部支社の幹部たちに命令。彼らはクリーン悪トリオとなってあの手この手でタイムリース社の運搬員・ランやハル坊、2-3の邪魔をする。絶体絶命のピンチの時、タイムリース社のメカニックマン・豪速九に向けてハル坊が助けを求めると、天空を切り裂いて正義のヒーロー・イッパツマンが現れた！



STAFF INTERVIEW

水本完

[音響監督]

『富山敬さんとタイムボカンシリーズの想い出』

――タイムボカンシリーズでずっとナレーションを担当されてきた富山敬さんが『逆転イッパツマン』ではついに主役にキャスティングされましたが……

そうですね。笹川ひろしさんから「今回は富山さんを主役にしましょう」と言われて、「それはおもしろいですね」と話した記憶があります。

――富山さんを主役にするというアイデアは笹川総監督によるものだったのですね

そうです。笹川さんの胸の内に「いつもナレーターなどの“裏方”ばっかりで悪いなぁ」という気持ちがあったワケじゃないんでしょうけど（笑）「主役をやらせてみたい」というような想いがあったんじゃないでしょうか。でも僕は、富山さん自身は今まで通りのナレーターの方をおもしろがってるんじゃないかと思ってたんです。ところがそうじゃなかったみたいですね。彼から具体的なことを聞いたわけではないんですが、豪を演じている富山さんを見ていると「やっぱり役者は主役をやるのが楽しいんだなぁ」っていう風にこちらが勝手に思ってしまうほどいきいきやってましたよ。

――富山さんのアフレコ現場での仕事ぶりなどについてお聞かせいただけますか

そもそも、僕と富山さんの付き合いは古いんですよ。僕がアニメの音響をはじめてやったのは『紅三四郎』なんですが、それよりもっと前の、洋画の吹き替えの頃からの付き合いですから。その頃彼はまだ若手だったんですけど、すでに引く手あまたでしたね。なぜかというと、あの人は声やしゃべり口調そのものに癖がなくて、いろんな役をきちんと演じ分けることができる器用な人だったからなんですよ。僕なんかも、洋画のアテレコの日程が決まると、すぐに富山さんに連絡してスケジュールを押さえてました。

――たしかに昔から二枚目も三枚目も両方やられていましたよね

でも芸達者な人は芸におぼれがちになるんだけど、彼はそうじゃなかったんですよ。どんな役でもリアリティがありました。例えば、アニメは現実よりも感情の起伏が激しいでしょ。富山さんはそれをただ単に器用にこなしてゆくのではなくて、ごく自然な流れで演じることができたんですよ。例えば『ヤットデタマン』でのささやきレポーターを演じる時にも、声をひそめながら3悪が馬鹿馬鹿しくやられてゆく様子をきちんと実況中継するんですよ。もう見事でしたね。

つまり、彼はどんな声を出しながらでも、その役にとって必要なこと――ドラマの中で誰が誰に向かってどういう思いでしゃべっているのか、という演技の本質ですよね。これをきちんと演れる数少ない役者だったんです。どんなに演技をするのが難しいキャラクターであっても、それを普通にこなしていました。俳優の演技によって役がより生々と立ち上がってくる、その場の状況や人物の関係が見えてくる。どんなにとぼけたセリフをしゃべっても、その役の中味をちゃんと理解してしゃべるから「作りもの」の嫌らしさが無い。そんなことが極自然にできた俳優さんでしたね。あのオダテブタの台詞なんかも、誰にも真似できない彼独特の口調があって面白いですね。

僕もこの世界に長いけど、富山さんは声優の世界で屈指の役者じゃないかな。亡くなった今でも……。

――『イッパツマン』では清水勝則さんと連名でクレジットされていますが、作業分担のようなものがあったのですか？

この作品から若手にバトンタッチする意味もあって、実際は『イッパツマン』はほとんど清水くんが1人でやってると思います。たしか清水くんがタイムボカンシリーズで音響監督を担当するのは『イッパツマン』が初めてで、僕は最初の頃だけ引き継ぎみたいな感じでやってたんじゃないかな。



――水本さんにとって、音響監督としてのタイムボカンシリーズならではのおもしろさを伺いたいのですが

そうですね……笹川さんはいいものはどんどん取り入れていく方で、アフレコの最中に役者が演じていてポッと出てきた表現を、すぐに翌週の話の中に入れて来ちゃうんですよ。つまり、台本とちょっと違っていても、役者の表現の方がおもしろければそっちを採用していたんです。アドリブみたいな形で演技中に自然と出てくる表現は、キャラ（役）の気持ちそのものでもある訳ですから、そこは大事にされてましたね。そうやって役者とキャラクターが一体になるように持っていくのは笹川さん流ですね。

また、そういう笹川さんの意図が分かってくると、役者の方も「もっと生々と大膽にやろう！」という気持ちになって伸び伸びと演じることができるんですよ。そうやって生まれてきた表現は、僕が下手に演技の指示をするよりもずっとおもしろいんです。こういう現場ができてくると、僕がやるべき仕事というのは、アフレコ現場で役者たちが伸び伸びと演技ができる雰囲気を保つことになる訳なんです。

『イッパツマン』の頃になると、アフレコ現場は完全にこうした感じになってましたね。しかも主役が富山さんでしたから、僕は何も言う必要がありませんでした。彼はこのシリーズのことを全部解ってるわけですからね。あとはダビングなどのアフレコ後の作業でどれだけテンポよくまとめられるかとか、そちらの方に腐心していればいい。タイムボカンシリーズは、役者と一緒になって創りあげてゆくことができた希有な作品ですよね。

作品全体としては、ギャグものなんだけど、単なるうわべだけの笑いに終わらないシリーズという印象が強いですね。馬鹿馬鹿しい中にも、なんか人間の悲哀みたいなものがフッと感じられる……そういう切ない部分がどこかしらあるアニメでした。この“おかしいけど切ないもの”という気持ちは、自分たちの中のどこかにあるんですよ。だから、いつまでも心に残っているんだと思います。

●インタビュアー・構成：ぽろり春草（スタジオ春草）

PROFILE

『紅三四郎』や『みなしごハッチ』『黄金戦士ゴールドライタン』などあまたのタツノコ作品で音響監督を務めてきた大ベテラン。タイムボカンシリーズでは第1作『タイムボカン』から音響監督を務める（『逆転イッパツマン』では清水勝則氏と共同）。タツノコ作品以外の代表作は『幽遊★白書』『みどりのマキバオー』など。最新作は『エッちゃんの戦争』という劇場作品。現在はザックプロモーションの相談役で、直接音響制作にかかわることは少なくなっている。

CHARACTER & MECHANIC FILE



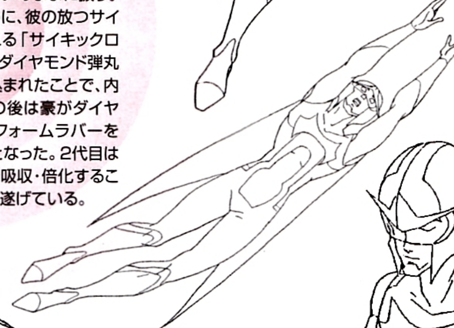






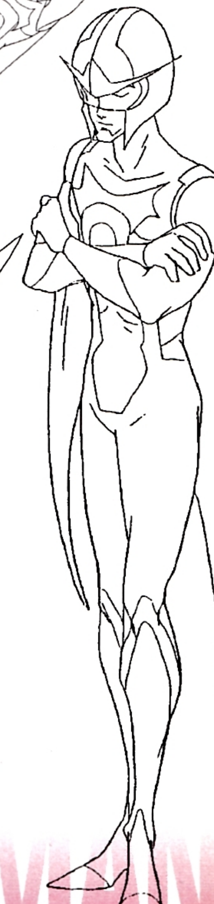
イッパツマン

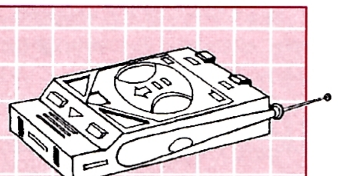
ハル坊からのピンチ通信を受け、ランたちを助けにやってくる正義のヒーロー。素早い身のこなしと人間離れしたパワーでクリーン悪トリオや隠球四郎と戦う。武器は、野球のボールのようなレインボールを思いのままに扱う。初代イッパツマンは豪の命を守るために、彼の放つサイキックウエーブによって遠隔操作される「サイキックロボット」だった。だが、球四郎の放ったダイヤモンド弾丸をその超気密化されたボディに撃ち込まれたことで、内部圧力の関係で粉砕してしまう。その後は豪がダイヤモンド弾丸の衝撃を緩和する超硬質フォームラバーを装着し、彼自身が2代目イッパツマンとなった。2代目は星ハルカからのサイキックウエーブを吸収・倍化することにより、初代よりパワーアップを成し遂げている。











↑↓ハル坊が豪に連絡を取るためのピンチ通信機（イラスト上）と、それを受信するために豪が腕に装着している受信機（イラスト下）。



IPPATSU-MAN



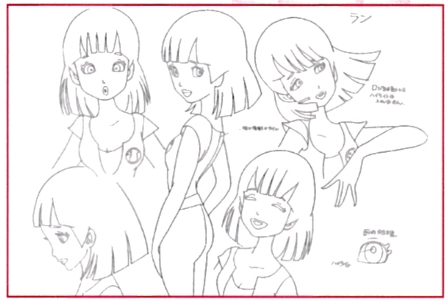
豪 速九

20歳。頭脳明晰、スポーツ万能で礼儀正しい好青年。その上、二枚目で若い女性社員の憧れの的。タイムリース本社にはロボット修理メカニックマンとして勤務している。孤児院・ナンダースホームの出身。生まれながらの超能力者で、念力によって生じる超心理波"サイキックウエーブ"を放射することができる。実は国際平和機構の特別エージェントである。



放夢ラン

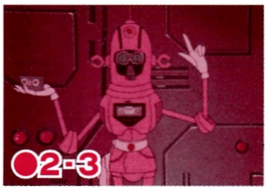
18歳。タイムリース本社にトッキュウザウルス（第31話よりトッキュウマンモス）のチーフドライバーとして勤務。ハル坊、2-3と一緒にリース品の運搬を行っている。普段は活発で元気な女の子だが、惚れている豪の前ではおとなしくなってしまう。





●ハル坊

6歳。ランの助手としてリース業務のサポートを行う。転勤の多い自分たちと一緒に各地を転々とするのは教育上良くないと判断した両親の方針により、従姉妹のランのもとに居候をしている。豪の前ですぐに赤くなってしまうランをからかうマセた性格をしている。



●2-3

タイムリース社の誇る高性能サポートロボット。その割には三河弁で会話するほか、カラオケが大好きという妙な特徴を持っているが、気のいい性格をしている。リース運搬中には、胸のカセットにカラオケテープをセットして歌を歌う。若干一言多いところもある。



●星ハルカ

24歳。タイムリース社ヒネルトジャー支社から本社に転属してきた美女。本社では管理部主任としてランたちに出動指令を報告する。ハルカも豪と同様、幼い頃からの特殊能力者だった。イッパツマンとなった豪にサイキックウエーブを送り、彼をサポートする。

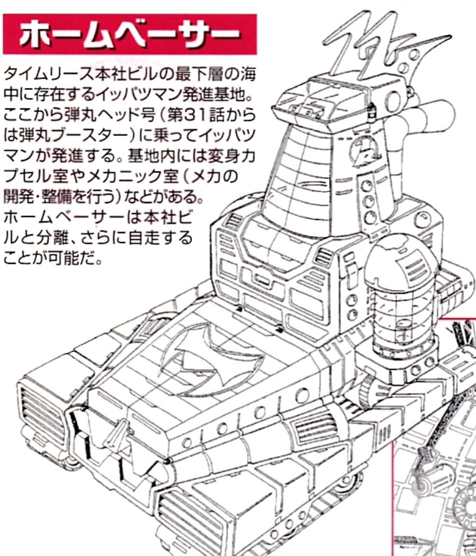


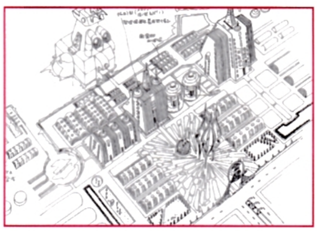
●ヒゲノ部長

本名・ヒゲノ濃造。タイムリース社の社員としては豪の上司に当たるが、世界の平和を守るために秘密裏に組織された国際平和機構のサイキックロボット研究開発室長というもう一つの顔を持っている。ハルカをタイムリース本社に呼び寄せたのも彼だ。

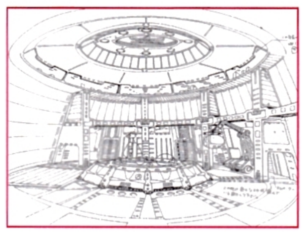
ホームベーサー

タイムリース本社ビルの最下層の海中に存在するイッパツマン発進基地。ここから弾丸ヘッド号（第31話からは弾丸ブースター）に乗ってイッパツマンが発進する。基地内には変身カプセル室やメカニック室（メカの開発・整備を行う）などがある。ホームベーサーは本社ビルと分離、さらに自走することが可能だ。

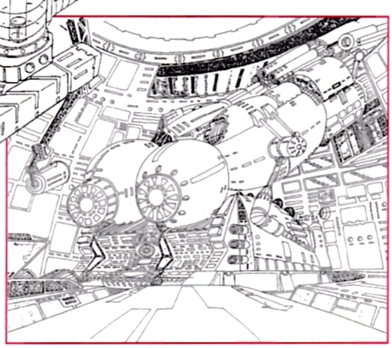




↑タイムリース本社全景。本社ビルの他、営業部、技術部、リース品管理部などの部署がみられる。

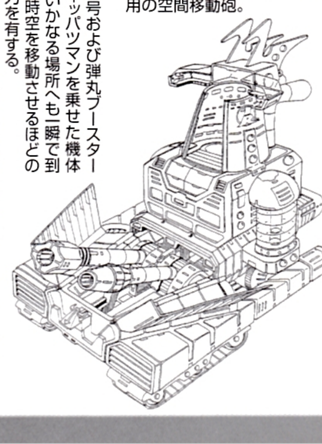


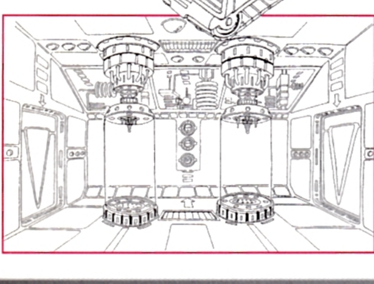
↑タイムリース本社ビルにある修理整備工場。ここで運搬メカが整備されている。



←弾丸ヘッド号および弾丸ブースター発射装置。イッパツマンを乗せた機体を地球上のいかなる場所へも一瞬で到達させたり、時空を移動させるほどの物凄い射出力を有する。

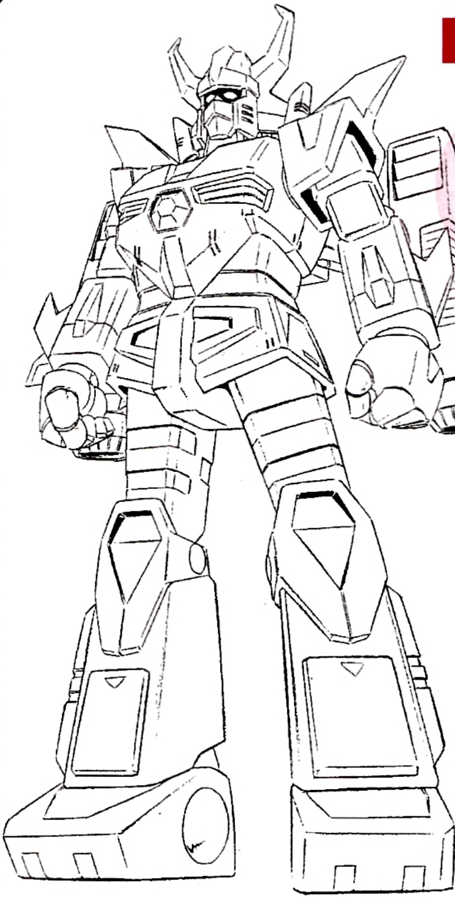
↓ホームベーサーが弾丸ヘッド号および弾丸ブースター射出用の大砲を展開した姿。向かって左側がタイム移動用の時限砲。右が現代用の空間移動砲。





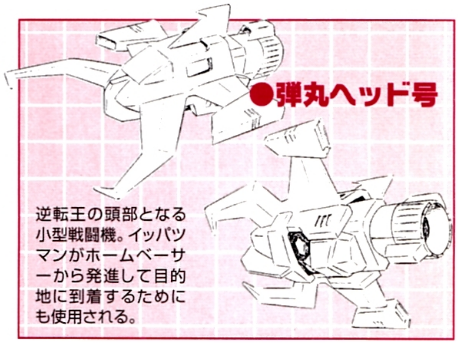
←変身カプセル室。右のカプセルに入った豪の発したサイキックウエーブを増幅し、左のカプセルの中に入っている未稼動状態のサイキックロボット（イッパツマン）に放射。この一連のプロセスによって、初代イッパツマンは稼動していた。2代目イッパツマンでは、豪の代わりにハルカが、そしてサイキックロボットの代わりに豪がカプセルに入る。

逆転王



イッパツマンが搭乗して3悪のメカ等と戦う巨大戦闘ロボット。トッキュウザウルスの胴体パーツが分離・変形し、弾丸ヘッド号と合体して完成する。動力源は太陽エネルギーで胸のダイヤモンドからエネルギーを吸収。

●弾丸ヘッド号



逆転王の頭部となる小型戦闘機。イッパツマンがホームベーサーから発進して目的地に到着するためにも使用される。





←ミサイルなどの攻撃から身を守るための楯「逆転シールド」。逆転王の武器はすべて空気中のイオンを結合して作られている。



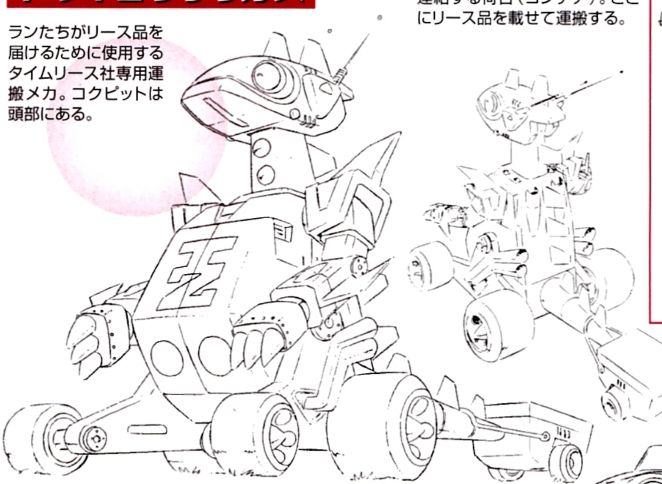
←青龍刀に似た形状をしている「正義刀」。鋭い切れ味で敵を一刀両断にする。



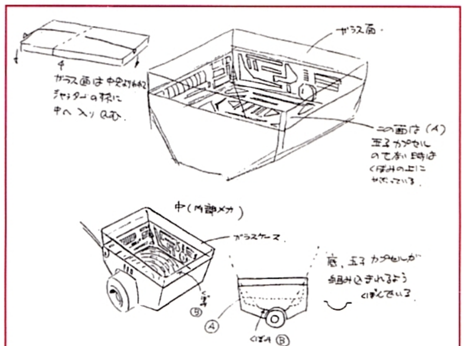
↑棒槍のようにも三節昆のようにも自在に変化させて使用することができる武器「魔神棒」。

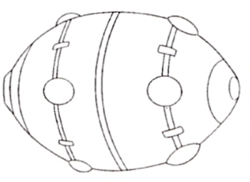
トッキュウザウルス

ランたちがリース品を届けるために使用するタイムリース社専用運搬メカ。コクピットは頭部にある。



→トッキュウザウルスの後部に連結する荷台（コンテナ）。ここにリース品を載せて運搬する。

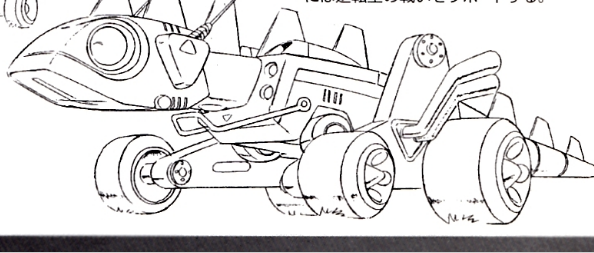




←コンテナ内に収まらない大型のリース品は、このようなカプセルに収めた上でコンテナの上に固定して運搬する。

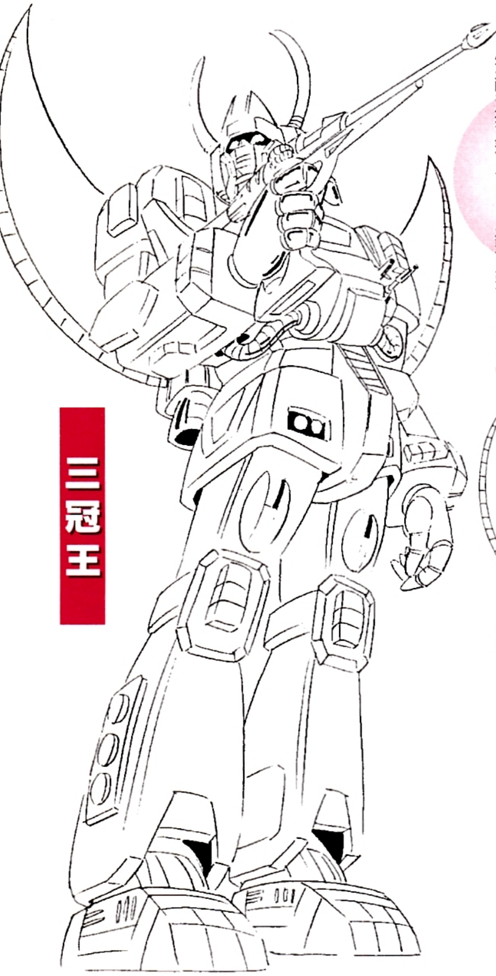
リリーフドン

↓逆転王のボディ部分が分離したトッキュウザウルスが変形したメカ。時には逆転王の戦いをサポートする。

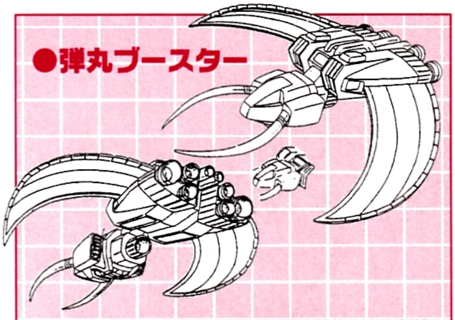


三冠王

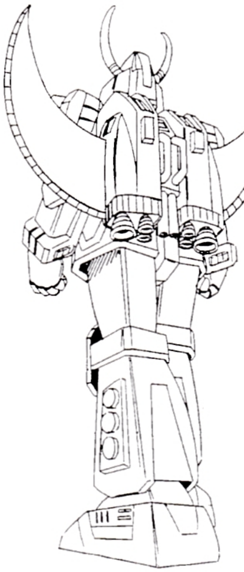
逆転王に代わって第31話より登場する新型巨大戦闘ロボット。トッキュウマンモスの胴体&脚部が分離・変形し、弾丸ブースターと合体して完成する。メインパイロットのイッパツマンと共に、ランとハル坊も両胸に装備された2連機銃の操作担当として搭乗する。また、逆転王と異なり自分の意志を持っている。左の図で三冠王が持っているのは、どんな敵も打ち落とすビーム銃「三冠アームガン」。

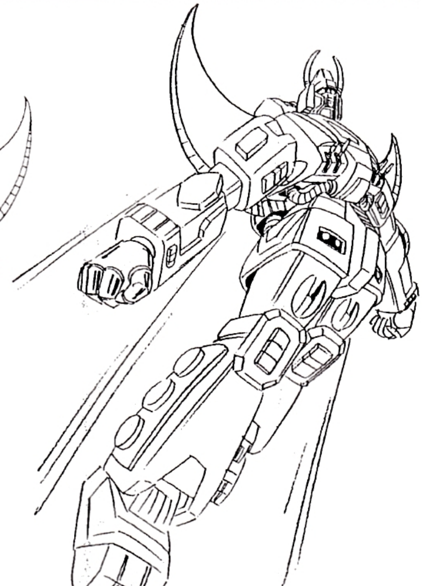


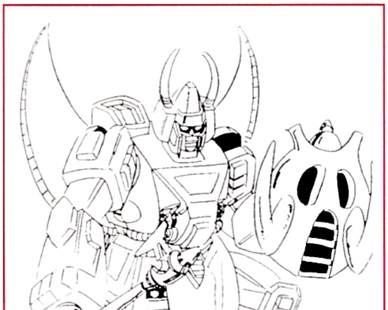
●弾丸ブースター



三冠王の頭部となる小型戦闘機。翼は胴体の中に収納可能だ。この機体で幾度か球四郎の駆るマシンとアクロバットな戦闘を行っている。







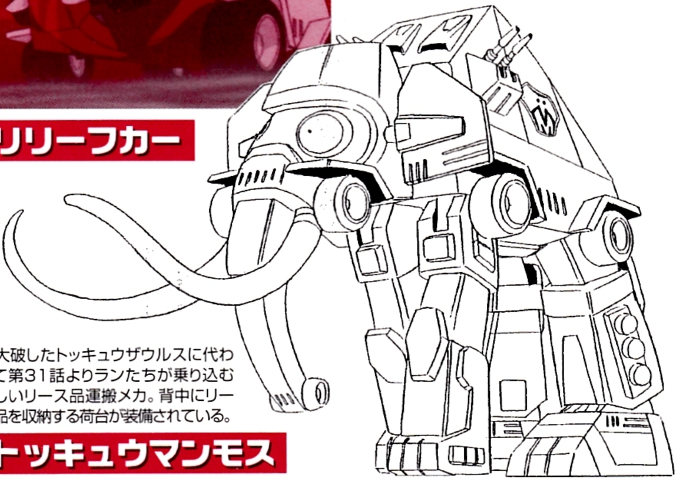
↑他にも楯である「三冠シールド」や接近戦用武器「三冠トマホーク」を装備する。

リリーフカー



←三冠王のボディ部分が分離したトッキュウマンモスが変形したメカ。2-3が操縦。背部の荷台部分が展開して三冠王を乗せて走ることが可能。そのため、リリーフドンよりサポートメカとしての汎用性に長けている。

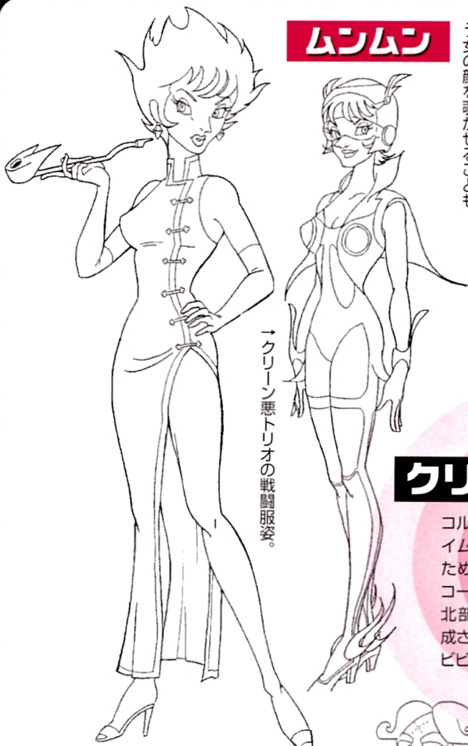
トッキュウマンモス



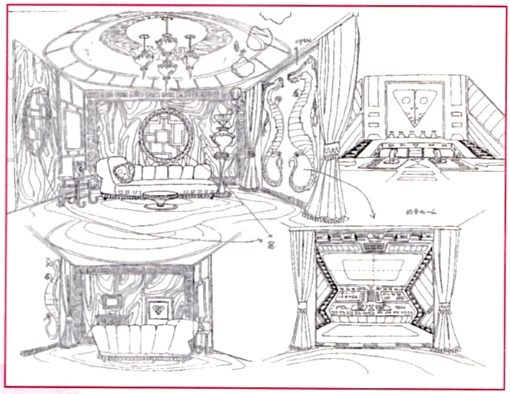
→大破したトッキュウザウルスに代わって第31話よりランたちが乗り込む新しいリース品運搬メカ。背中にリース品を収納する荷台が装備されている。

ムンムン

26歳。シャレコーベリース社オストアンデル北部支社長。クリーン悪トリオではリーダーを務める。敵対する関係にありながら豪のことを一途に想い続けるという女の顔を覗かせることも。



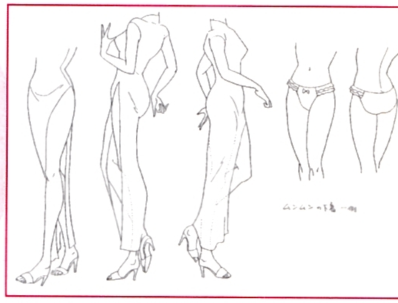
←クリーン悪トリオの戦闘服姿。



←ゴージャスな雰囲気の社長室。向かって右手に会長からの指令を受ける部屋がある。

クリーン悪トリオ

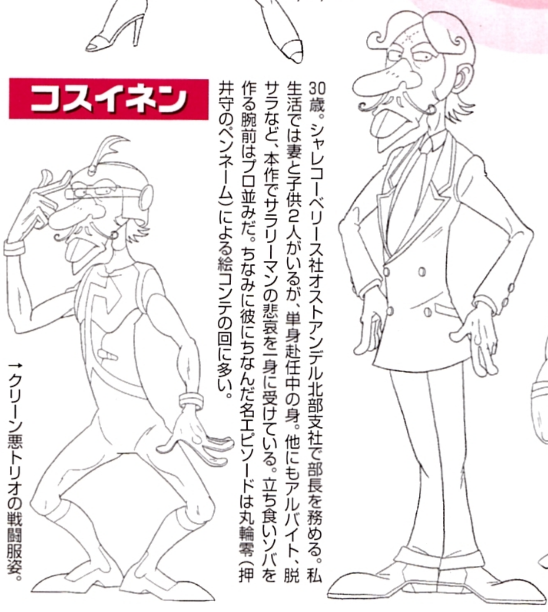
コルドー会長の命令によってタイムリース社の信用を落とすために組織された部隊。シャレコーベリース社オストアンデル北部支社の3幹部によって構成されている。事あるごとに「シビビーン!」とズッコケている。



↑お色気いっぱいのムンムンの下着姿。

コスイネン

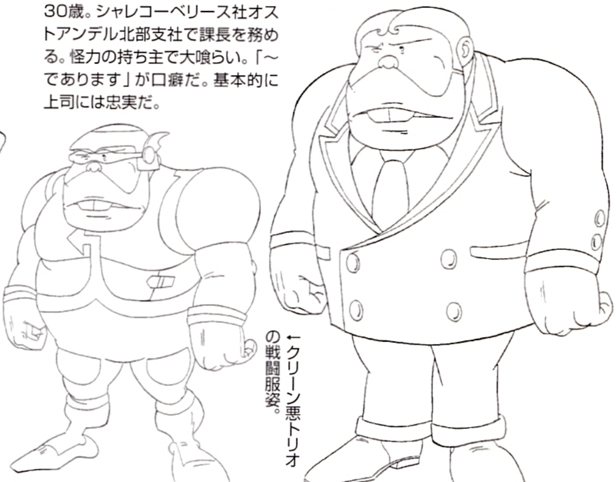
30歳。シャレコーベリース社オストアンデル北部支社で部長を務める。私生活では妻と子供2人がいるが、単身赴任中の身。他にもアルバイト、脱サラなど、本作でサラリーマンの悲哀を一身に受けている。立ち食いソバを作る腕前はプロ並みだ。ちなみに彼にちなんだ名エピソードは丸輪零（押井守のペンネーム）による絵コンテの回に多い。



←クリーン悪トリオの戦闘服姿。

キョカンチン

30歳。シャレコーベリース社オストアンデル北部支社で課長を務める。怪力の持ち主で大喰らい。「〜であります」が口癖だ。基本的に上司には忠実だ。



←クリーン悪トリオの戦闘服姿。



●ミンミン

コルドー会長の孫娘。第16話より登場し監視と冷やかしのためにクリーン悪トリオと行動を共にする。あっけらかんとした性格をしており、よくヌードになっていた。敵であるイッパツマンに憧れている。



●今井市郎

通称・今市。シャレコーベリース社の下請けである巨大メカ製作所「マシンフレンド」の経営者で、エンジニアとしてメカの設計・開発も担当している。毎回、自分の作ったメカを自信満々に語るが、いつも必ずイマイチな箇所がある。



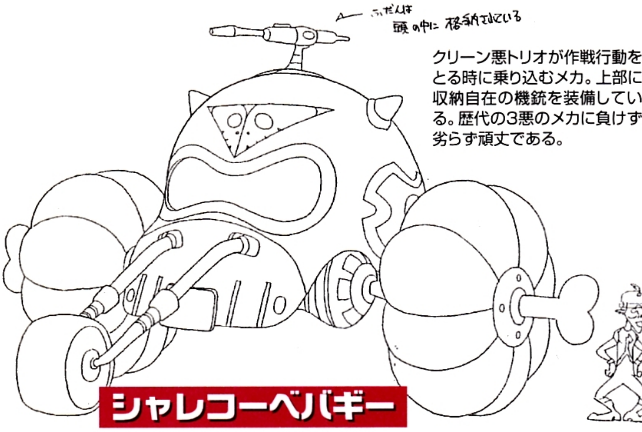
●スパイ000

コルドーの命により球四郎の部下として活動する諜報部員。エスパーである彼は、超能力戦においてイッパツマンを苦しめることもあった。



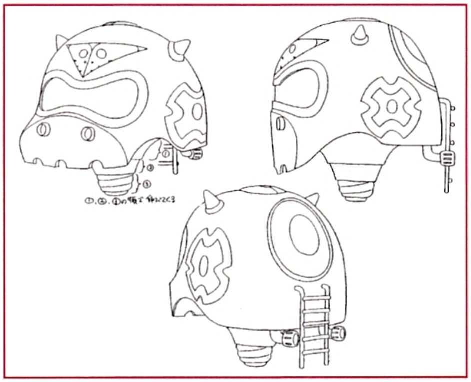
●うえだ屋の親父

ムンムンたちがいつも寄る屋台の親父。サラリーマンとしての哀愁にまみれた3悪の良き話し相手になっている。ちなみにこのキャラは本作の担当ディレクターである植田秀仁がモデルとして作られている。

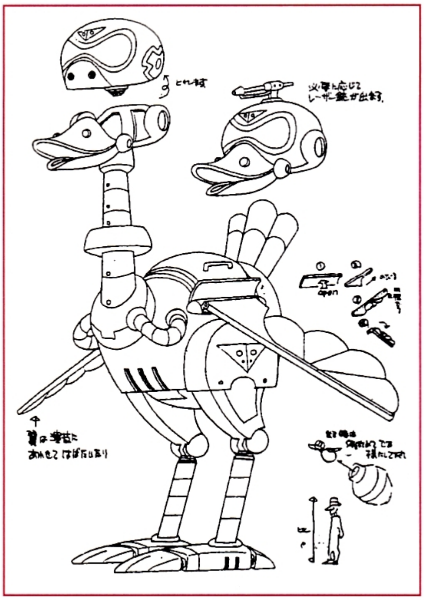


クリーン悪トリオが作戦行動をとる時に乗り込むメカ。上部に収納自在の機銃を装備している。歴代の3悪のメカに負けず劣らず頑丈である。

シャレコーベバギー



↑コクピットのドクロ部分が分離して巨大メカと合体し、その頭部となる。ドッキング部分はネジ式になっている。



シャレコーベダチョウ

シャレコーベバギーに代わって第31話よりクリーン悪トリオのメインメカとなる機体。飛行も可能となり、行動範囲が広がった。武器はお尻から落下させるタマゴ型爆弾。巨大メカの頭部となるドクロ部分は、シャレコーベバギーのものと共通。

コン・コルドー

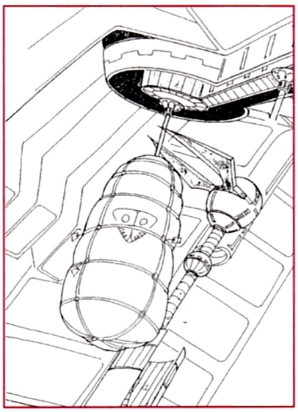


シャレコーベリース社会長でコルドー財閥の総帥。謎の多い人物だったが、その正体は強大なパワーを持つ宇宙人だった。国際平和機構が開発を進めていたサイキックロボットの秘密を長い間狙っていた。

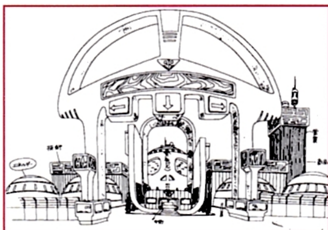


隠 球四郎

シャレコーベリース社オストアンデル西部支社長。彼が率いる支社はいつも業績トップの超エリート。だが、彼は大学在籍中にすでに死亡しており、コルドーによってサイボーグにされていた。



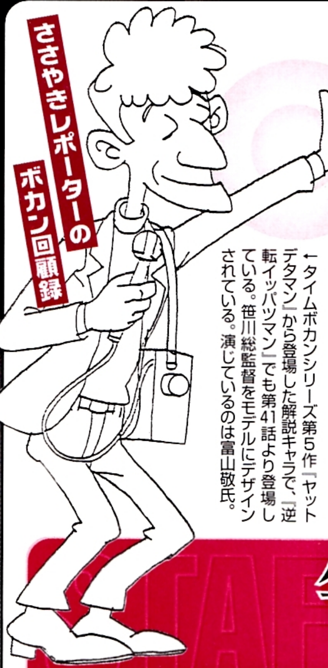
→荷造りされた巨大メカは、タイム落とし穴を通して時空を越えて送られてくる。第30話までは基地から、それ以降はマシンフレンドから送られてくる。



↑→シャレコーベリース社全体の中で、いつも最下位をマークしている支社。その業績は社屋にも反映されており、正面から立派に見えるのはハリボテで実はオンボロ。社屋の地下にクリーン悪トリオの秘密基地が存在する。

シャレコーベリース オストアンデル北部支社





←タイムボカンシリーズ第5作『ヤットデタマン』から登場した解説キャラで、『逆転イッパツマン』でも第41話より登場している。笹川総監督をモデルにデザインされている。演じているのは富山敬氏。

笹川ひろし

［総監督］

『遊び心をふんだんに入れて作ることができました』

——タイムボカンシリーズの中では、特にシリアスな展開や緻密な構成が特徴の『逆転イッパツマン』ですが、これは最初から意図されていたのですか

『イッパツマン』には、企画としては子供向けからは少し外れてしまうかもしれないけど「サラリーマンの生活を描いてみたら楽しいのではないか」というところから入っていったんですよ。シリーズ全体を通したストーリー展開みたいな部分は、それほど意図していた訳ではなくて偶然にそうなったところもかなりあります。後半から出てくるハルカなんかも、最初はストーリーのカギを握るような重要なキャラにしようとは考えていませんでしたし。

——でも、ハルカが初登場するシーンなんて、かなり意味深長な雰囲気でしたよ

ハハハ。でも、作っている私たちも不思議に思うことがあるんですけど、当初大した役どころでもなかったキャラが、終盤に来て急に重要なキャラクターに変貌してしまったりすることがよくあるんです。『ゼンダマン』のニャラボルタや『オタスケマン』のゲキガスキーなんかも、最後に重要な役回りをさらって行く形になってますが、もともとはマンネリを避けるために設定したキャラだったんです。シリーズを始めるときには、大抵大まかな展開しか考えていないんですよ。イッパツマンと豪の関係にしても、一番最初はあそこまでしつこく隠すつもりはありませんでした。でも、ストーリー性が重視されてくると、そういう謎の部分が話の牽引役になりやすいですからね。それで話が大詰めを迎えてくる頃になって、それまで振ってきた謎のつじつまを合わせることになるんですが、『イッパツマン』ぐらい勢いやノリがある作品だと、まるで最初から上手くあつらえたかのようにつじつま合うんです（笑）。

球四郎なんかも、最初はダメな3悪との対比くらいの存在のつもりだったのに、終盤になるととても重要な役どころを背負っていきますから……おもしろいものですね。

——終盤はイッパツマン対球四郎という図式にまで発展していきますからね

そうですね。球四郎もかなり良い位置にハマったという感じですよね。『イッパツマン』は中盤から後半にかけてストーリー性が強くなっていったので、そうなると球四郎みたいなシリアスで裏のありそうなキャラが大事になってくるんですよ。この辺の扱いは、脚本の小山高生さんの力が大きかったです。

——ただ、そこまでシリアスでありながらギャグ路線からも外れないところも『イッパツマン』の特徴の一つではないでしょうか。特にサラリーマンの生活を題材にしていただけあって、生活感溢れるギャグが多かったですよね

サラリーマンが一杯呑み屋で愚痴をこぼす、なんていうのも上手く入れられましたしね（笑）。

——サラリーマンの悲哀という面では、「人間やめて何になる?」のコーナーがやはり出色なのですが

良いコーナーになりましたね。3悪が人間をやめてはみたけれど、どの世界にも苦労があって、やっぱり人間で生きてゆこうと思い直す……あれは好きでした。脚本にはなかったんですけど、コンテを描いていて3悪がグチる場面をふくらましていったら、あのコーナーが生まれたんですよ。

——次はメカについて伺いたいのですが。逆転王や三冠王は、前作に引き続きシリアステイストのロボットでしたが

実はああいう武者型のロボを、このシリーズに入れるというのは非常に恐かったです。あの当時、カッコいいロボットものはどこでもやっていましたので、こちらは後発になるじゃないですか。ですから「勝てるわけがないなぁ」と思うわけなんです（苦笑）。ただ『イッパツマン』の時は、前作の『ヤットデタマン』でもそういうロボ（大巨神）を登場させていましたので、多少は大丈夫かなという気持ちもありましたけど。

——でも『ヤットデタマン』と比べると、『イッパツマン』のメカ戦は正統派巨大ロボットアクションという雰囲気が強いですが、その辺の苦労などはいかがでしたか

どの辺まで普通のロボットアクションをやって大丈夫なのか、という加減ですよね。やり過ぎてそこだけ浮いてしまったら、作品全体としてつまらなくなるだろうし……シリアスな感じのメカ戦をボカンシリーズのテイストとどこまで融和できるかということに苦心しました。ただ自分で言うのもおかしいですけど、比較的上手くいったんじゃないでしょうか。あと、恐竜やマンモスのメカからロボットに変形するというのも、タイムボカンシリーズらしくて良かったと思いますよ。

——ところで逆転王や三冠王の合体変形シーンは、巨大ロボットアニメ史にも残る名場面としてファンの間で評価が高いのですが、コンテや作画を担当されたのはどなただったのですか?

あれは、うえだひでひと君じゃないかな。彼はああいうのが好きなんですよ（笑）。作画は各話の担当の方だと思います。

——うえださんは、それまでの各話演出から『イッパツマン』では担当ディレクターという形になりますが、その起用の経緯などをうかがえますか

それは世代的なことです。若い人の方が若い感覚というものを持っていますから、それを一番重要視したためです。アニメはその時代の感覚——ノリとか感性とか——にぴったり合った人が作るのが、一番いいんですよ。僕はあの当時もう“古い世代”でしたから。それで時代にも合っていて安心して任せられるという観点から、このシリーズを良く知っている若い世代のうえだ君にお願いしたんです。



メカの変形シーンにおいてスピード感が出たところなんかも、彼の若い感性が反映していると思うんですよ。そういう意味で、メカの演出はうえ

だ君に向いていたと思います。

――『イッパツマン』では、時におとぎ話の世界にタイムトラベルすることもあり、その発想の柔軟さもポイントだと思うのですが

忠実に歴史の話を描こうとすると、その時代のことをよく知らない人のために、歴史上の人物や出来事を解説する必要があるんですよ。それよりは誰でも知っている昔話を舞台にした方が――“昔の話”だから過去ということで――万人に受け入れられるだろうという発想です。

――『イッパツマン』で富山敬さんを主役に推されたのは、笹川さんだということですが

富山さんは基本的にいい声でしたし、ちょっと大人っぽい感じの声質でもありましたから、“誰からも好かれるいいお兄さん”という豪に合うんじゃないかなと思いましてね。でも当初は富山さんの方に照れがあったみたいですけど（笑）。

――『イッパツマン』では、豪とランを軸にした恋愛ドラマ的な展開も特徴でしたが、それは豪の持つ“大人っぽさ”みたいなところを意識してのことですか

その通りです。で、時にはランの方が主人公のように見えちゃう展開もありましたよね。

――豪の方も、最初の頃からわりとランに対して気があるようなそぶりもありましたが

最初から豪とランは結ばれるように考えていたと思います。

――そうなると、『イッパツマン』はこの2人の恋愛ドラマとも言えるのでしょうか？

そうかもしれませんね。そういう点でも『イッパツマン』はシリーズの中でも目立った作品になったと思います。

恋愛ありアクションあり謎解きあり、それに3悪のサラリーマンの悲哀と、これほど色々な見どころがあるのは、シリーズの中では『イッパツマン』だけだと思うんですよ。分量的にも上手く配分されてましたし。見ていて飽きさせないですよね。

――盛りだくさんで、一粒で何度も美味しいという感じで、まさにマンネリ打破といった展開でした

いや、マンネリはいいんです。マンネリには作品のマンネリと時間のマンネリがあって、時間のマンネリというのは、いわば習慣性ですね。タイムボカンシリーズでしたら、毎週土曜の午後6時半になるとチャンネルを合わせる、一種の安心感みたいなところでしょうか。そうなると作品は安定しますよね。作品のマンネリというのは、基本的にレギュラーのキャラが毎回同じことをする安定感なんです。でもその分、どこかで視聴者は飽きてしまうところもあるんですね。そうさせないために、ストーリーに強い引っ張りとか、次回にはどんなものが飛び出すか分からない、先の読めない要素を入れてゆくわけですが、『イッパツマン』ではその両方がかなりありましたよね。主役メカが交代するというのも、制作しているときは大変でしたけど、結果的にはそうした視聴者への“裏切り”にもなったので、やって良かったと思います。

――タイムボカンシリーズの基本とも言うべきギャグのことにお話を移したいのですが、楽屋落ちギャグが多いのが、シリーズを通して一つの特徴ですよね

その辺は、もうアニメにおけるバラエティ番組というノリですね。でもやろうと思って仕掛けるとシラけちゃうんですよ。上手くリズムにハマると楽しいんですけど。

――楽屋落ちと言えば、やはり笹川さん自身の分身的なキャラクター、ささやきレポーターが代表格と思うのですが

あれはですね、アクションシーンでは誰かが解説を入れないと、間が持たないことがあるんですよ。スポーツ中継も実況が入ることで盛り上がるという部分もありますよね。楽屋落ちと言うよりも、主にそういう意味合いで登場させてみたんです。ですから僕としては、分身と言うほどのものでもないんですよ（苦笑）。つまらなかったら1回で引っ込めてしまおうと思ってたくらいで。でも出してみたら「結構おもしろいなぁ〜」と（笑）。で、小山さんをモデルにした小山カメラマンとセットだったじゃないですか。背の高いカメラマンと背の低いレポーターというコンビの絡みもおかしかったですし、さらに小山カメラマンの顔がいつもフレームの外にあって見えないことも引っ張りになりました。

よく自分の講演で、終わったあとで聞きに来られた方がこっそり僕のところに来て、「ささやきレポーターは、やっぱり笹川さんがモデルなんですか？」なんて訊かれることもありますよ（笑）。

――もう一つ楽屋落ち的な部分で行きますと、『イッパツマン』の後半に登場するマシンフレンドというのは、タツノコの下請けスタジオのアニメフレンドのもじりなのですか？

そうですよ（笑）。マシンフレンドの今市を出そうと言い出したのは、たしか僕だったと思うんですけど。「がんばって作品を作ったんだけど、出来上がってみるとなんかイマイチだなぁ……」みたいな自分たちへの皮肉もあったり。デザイン的には、石ノ森章太郎先生の『佐武と市捕物帖』の市をちょっと拝借してるんですよ。実は（笑）。

――3悪のコクピットメカなど、ワンポイントギャグのネタやアイデアはどの段階で生まれてきていたのですか

あれは、絵コンテを描く人たちが、シナリオの合間を見て入れて来るという、遊びみたいなものが多かったですね。でも、ボツになったものも多いんですよ（笑）。

――ではフィルムに残ったものは、厳選された逸品というわけですね

ええ、そうなりますね。で、ウケたものは2回3回と使って定番にする。ウケるギャグというのは、不思議にアフレコした段階でなんとなく分かるんですよ。

――声の方は、アフレコ現場でその場で声優さんにお願いするのですよね

一応、どんな声が良いかというイメージは事前に考えておいて、その上で現場でお願いしていました。そこで台詞を読んでもらって調整するわけです。字面では出せない味みたいなものがあるじゃないですか。オロカブですと「おろか」で少し間があって「ぶ」となるとかは、声優さんにしゃべってもらってできたタイミングですから。

――タイムボカンシリーズといえば『イッパツマン』に限らず、お色気ギャグが多いのもこのシリーズならではですね

当時はあんまりタブーみたいなものもなかったですから。でも自分たちの中では、やりすぎないように一応線引きをしてはいたんですよ。ただ自分では抑えているつもりでも、気がつくとやってて（苦笑）。まわりの人たちから「笹川さんは、人には止めているのに、自分ではやってる。ズルイ!」とかよくいわれてました（笑）。でも放送局とかからは「お色気シーンをやめてくれ」とは言われなかったです。よっぽどのことがない限り、大抵のことは何をやっても許されてました。おおらかな時代でしたね。こんな感じで、タイムボカンシリーズは作っている側も、遊び心をふんだんに取り入れながら楽しんで作ることができた作品だったんですよ。

――シリーズの影の主役とも言える3悪について伺いたいのですが

よく3悪が主役になればいいと思われる方もいるんですけど、これがおもしろいもので、3悪が主役じゃお話が締まらないんです。やっぱりちゃんと主人公がいるから、3悪も活きてくるんです。そのバランスが難しいんですよ。パーセントで言えば、半々だときつくて、3悪の方がちょっと少ないくらいがちょうどいいんです。3悪の方がドギツサはあるんですけど（笑）、それだけではお話としてはピリッとしないんです。

でも、悪役なのにこれだけ人気が出たというのは、3人の個性のパワーというのが大きかったんでしょうね。

――最後に笹川さんにとってのタイムボカンシリーズについてと、その中における『イッパツマン』の位置づけをお聞かせ下さい

思い返すと、シリーズを通しての印象としましては、遊園地で遊んだような――いろんな乗り物に、いっぱい乗せてもらって遊ばせてもらった――感じですね。『イッパツマン』は、その中でも特に“大人っぽい乗り物”だったというところでしょうか。

とにかくタイムボカンシリーズはどれも「楽しかったなぁ」の一言ですね。

●インタビュアー・構成：ぽろり春草（スタジオ春草）

ROFILE

タイムボカンシリーズ全作品の総監督。『マッハGoGoGo』『ハクション大魔王』『新造人間キャシャーン』『ポールのミラクル大作戦』など多くのタツノコ作品の総監督を務めてきた。タイムボカンシリーズのみならず、タツノコ作品を語る上で欠くことのできない演出家である。タツノコ作品以外の代表作としては『ときめきトゥナイト』『忍者ハットリくん』『おーい竜馬』などがある。現在は竜の子プロダクション企画室ディレクターとして活躍中。

EPISODE GUIDE

■放映データ
1982年2月13日〜1983年3月26日
フジテレビ系にて放映 全58話

■MAIN STAFF
製作：吉田健二／原作：タツノコプロ企画室／企画：九里一平（竜の子プロ）、岡　正（フジテレビ）／総監督：笹川ひろし／担当ディレクター：植田秀仁／シリーズ構成：小山高男／メインキャラクター：天野嘉孝／サブキャラクター：上北実那、上北希沙／メカニックデザイン：大河原邦男／サブメカニック：さくまのぶかず／主題歌『逆転イッパツマン』作詩・作曲：山本正之、編曲：神保正明、歌：やまもとまさゆき（ビクターレコード）／音楽：神保正明、山本正之／録音制作：ザックプロモーション／録音ディレクター：水本　完、清水勝則／美術スタイリング：岡田和夫／撮影監督：橋本和典／制作担当：山田良一（アニメフレンド）、大野　実（読売広告社）／制作デスク：佐藤直人／プロデューサー：井上　明（竜の子プロ）、岩田　弘（アニメフレンド）、内間 稔（読売広告社）／制作：フジテレビ、タツノコプロ

■MAIN CAST
豪速九（イッパツマン）：富山　敬／放夢ラン：原えりこ／ハル坊：つかせのりこ／2-3：山本正之／星ハルカ：幸田直子／ヒゲノ部長：長堀芳夫／ムンムン：小原乃梨子／コスイネン：八奈見乗児／キョカンチン：たてかべ和也／ミンミン：土井美加／コン・コルドー：肝付兼太／隠 球四郎：小滝 進／今市：千葉 繁／ナレーター：鈴置洋孝

※名前の表記は放映当時のものに準じております。

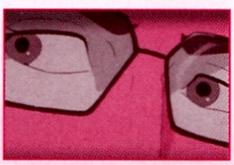
第1話　ピンチ一発大逆転！

世界一のリース会社であるタイムリース社は、新事業として時間を超えて何でも届ける“タイム運搬”をスタートすることになった。その初仕事を任されたランたちは紀元前3世紀のエジプトへピラミッド建造用の怪力マシンを届けるが、タイムリース社の信用を失墜させせようとするクリーン悪トリオの妨害工作によってその機体は暴走を始めてしまう。ハル坊の助けを求める声が剛に届いた時、空の彼方から謎のヒーローが現れた。ピンチを救ってくれた彼の名は、イッパツマン!!



第2話　ライバルはすごいヤツ

シャレコウベリース社の支社長会議に遅刻してしまったムンムンは、会長に営業成績トップのオストアンデル西部支社長・隠球四郎と比較され意気消沈。同じ頃、タイムリース社にラッキー谷へヤママル・ワクチンを緊急輸送して欲しいという連絡が入った。キドアイダケの毒にやられたハイカーを救うため、早速出動するトッキュウザウルス。だが、その情報を入手したムンムンたちは、先回りして水虫の薬をワクチンと偽って納品し、さらにトッキュウザウルスの行く手を妨害する！



第3話　人間やめた悪トリオ

17世紀のパリから三銃士のアトスの身代わりロボのリース依頼が入る。身代わりロボが届かなければ、捕らわれた伯爵夫人の命にかかわるのだ。だがまたもクリーン悪トリオの妨害が。その時イッパツマンが現れランたちは無事にリース品を届けることができた。一方、毎度の失敗で人間に嫌気が差したムンムンたちは人間をやめようと思いつくのだった。

名物コーナー「人間やめて何になる？」が今回より登場。最後に「人間がいいねぇ」と思い直す哀愁漂うポジティブさもポイント。



第4話　ひとめぼれミスターX

出勤途中地下鉄のホームから転落してしまったムンムンは、自分を助けてくれた美形の男性に一目惚れ。彼のことを「ミスターX」と慕うそんなムンムンの元に、平安時代に特製の斧を届けることになったランたちを妨害せよと指令が届く。まんまと依頼主の源頼光ににせ物を渡したクリーン悪トリオは、今度はランたちを騙して本物の斧を取り上げようとするが……。

今回のミスターXは、シリーズを通してムンムンにとって心の恋人となる。その正体とは？



第5話　ホームベーサーの秘密

ランたちは、1957年の中央アジアで発生したバッタの大群を退治するためのメカを届けることになった。その頃、3悪の元にコルドー会長から例によってタイムリース社妨害の指令が下る。ムンムンたちはトッキュウザウルスの積み荷のすり替えに成功。偽の退治メカのために逆に被害を拡大してしまい、ピンチに陥るランたち。ハル坊の通信を受けた豪が向かった先はタイムリース本社の地下だった。イッパツマンの秘密基地・ホームベーサーは、タイムリース本社の地下にあったのだ。



第6話　全公開！ 部長の一日

今日もわびしく単身赴任の朝を迎えたコスイネン。そんな彼が出社すると同時に、会長からの指令が下る。南極へ大型雪上車を届けるトッキュウザウルスを妨害するために、早速出動するクリーン悪トリオ。激しいブリザードのため、思うようにスピードを出せないトッキュウザウルスの前に、コスイネンたちの仕掛けた罠が……。

前回のビックラ主水に続き、3悪がメカを呼んだときにそろばんを弾く“イケマスイタチ”が今回より登場する。



第7話 イッパツ急行医療隊

1588年イギリス海峡の野戦病院に医療ロボを届ける依頼を受けたタイムリース社。例によってクリーン悪トリオは、その先回りをしてインチキロボを納品しようとする。ピンチ通信を受けた豪は、風邪で体調を崩しているのをおしてホームベーサーへと向かった。ランたちの救援に駆けつけたイッパツマンは、3悪を見事に撃退し、タイムリース社の信用は護られたのだった。



この回からシリーズ前半の謎となるイッパツマンの正体について、本格的に伏線が張られ始める。

第8話 豪ピンチ通信応答せず

今日はタイムリース社の社員旅行。豪と一緒に旅行ができると思っていたランだったが、18世紀の江戸に耐火超軽量のまといを届ける仕事が入り泣く泣く出動。ところが江戸時代へ先回りしていた3悪にまといすり替えられたと知ったランとハル坊は、豪に通信を送る。豪は社員旅行のはずだが、イッパツマンはランたちの元へ現れた。実は豪は途中で会社に引き返していたのだ。イッパツマンの正体は豪なのだろうか?



今回、コルドーの指令画面にミンミンがチラリと登場。

第9話 ギョッ!? 魚との遭遇

3001年の宇宙探検家ベリー・ジョーダンからのSOS通信をタイムリース社は受けるが、利益優先の営業部長はその依頼をキャンセルしようとする。それを独断で撤回したのが、技術部のヒゲノ部長だった。彼は困っている人がいれば助けるというタイムリース社の理念に基づき、トッキュウザウルス発進を指令する。

SFパロディネタ満載のお話。またシリーズ後半の重要な役どころとなるヒゲノ部長が初登場。ダンディな外見とは裏腹にエエカッコシーの小心者という性格付けになっている。



第10話 つらいなァ! 休日出勤

18世紀のデンマークに草刈りマシーンを運ぶことになったランたち。しかしせっかくの休日を返上の仕事で、ランのやる気はイマイチ。そんなランの前にいつものようにクリーン悪トリオの罠が……。ピンチ通信を受けた豪だったが、彼は非番で自宅にいたのだ。豪はバイクを飛ばしてホームベーサーへと向かう。

「暗い、暗いなぁ～」のセリフが哀愁をそそる"暗いホタル"が今回より登場。クリーン悪トリオの経費や水増し領収書など、今ではシャレにならない風刺ギャグも満載だ。



第11話 打倒! アルプスの魔女

羊飼いのペーテルの依頼で、クララの車椅子を届けることになったタイムリース社。ボランティアに近い仕事に反対する営業部長に、ヒゲノ部長は異論を唱え、ランたちは1840年のアルプスへ出発する。ところが例によってクリーン悪トリオが現れ、車椅子を壊されそうになってしまう。ピンチ通信を受けてイッパツマンが出撃する。だが、3悪のメカが放つ凍結光線のため大ピンチに!



毎回登場するタイムリース社の営業部員の多くは、当時の制作スタッフがモデルだ。

第12話 京都めざして大レース

応仁の乱直後の京都へ、支援食料を届けるレースをすることになったタイムリース社とシャレコーベリース社。社の名誉をかけて全速力で急ぐトッキュウザウルスに、自称・F-1ライセンス持ちのコスイネンが操るハイスピード仕様のシャレコーベバギーが迫る。その頃、豪は彼が育った孤児院を訪れていた。そこへハル坊からのピンチ通信が……!



今回はシャレコーベリース社の現地営業部員も登場し、この会社が世界シェアNo.2らしい部分を伺わせてくれる。

第13話 豪・その出生の秘密

ある日タイムリース社に、豪の兄弟という幼い子供が面会を求めてやってきた。ところがその日、豪は夜勤のために昼間は会社に来ていなかった。その子の話によれば、彼の母親が病気で倒れてしまったのだという。ランたちはピンチ通信機を使って豪に連絡を取った。山間部の秘密の研究施設で、ある実験に立ち会っていた豪は、話を聞いて急いで孤児院のナンダースホームへと向かった。豪はナンダースホーム出身の青年であり、幼い頃から特殊な能力があったという……。



一発ギャグキャラコレクション❶



①オロカブ：3悪が失敗するとコクピットから「おろか、ぶ」というセリフとともに登場。世の無常さを憐れんでいるようにみえながら、やっぱりバカにされているようで脱力してしまう。②イケマスイタチ：三悪が調子いい時にそろばんをはじきながら「願いまして～は～、コリャいけまっせ!」と彼らを景気づける。だが、その後の展開は……。③暗いホタル：小原乃梨子の声で「暗い、暗いなぁ」と言いながら、パンツを下ろして光るおしりを見せる。調子悪く落ち込み気味の時に登場。元は漆黒の闇の中にも一寸の光があるという前向きなギャグのはずだが、余計に寂しくなってしまうのは何故!?

第14話　太平洋無着陸気球横断

会社に内緒で立ち食いそば屋でアルバイトしていたコスイネンとキョカンチン。それがムンムンにばれて、とがめられたコスイネンは逆切れし、辞表沙汰にまで発展してしまう。そんな二人をキョカンチンは必死に説得しクリーン悪トリオ分裂の危機を回避しようとする。そこへ、例によってトッキュウザウルスを妨害するようにコルドー会長から指令が下った。任務に成功したらムンムンがそば屋開業を援助してくれるとキョカンチンから聞いたコスイネンは、発憤するのだが……。



第15話　にせリースで罠をはれ

給料日にもかかわらず、業績の悪さから給料が現物支給となってしまったシャレコーベリース社オストアンデル北部支社。この惨めな状況を打破するために、ムンムンたちは打倒イッパツマンの計画を思い立つ。偽のリース発注をして罠を張り、トッキュウザウルスを奪い逆転王への合体を阻止しようと言うのだ。かくして３悪は1900年のイギリスから偽の発注を行う。そうとは知らないランたちは、まんまとおびき出され、トッキュウザウルスを３悪に奪われてしまった!



第16話　おしかけ美少女社員

シャレコーベリース社オストアンデル北部支社に現れたどこか小生意気な美少女。彼女こそ、コルドー会長の孫娘・ミンミンだった。ミンミンは黙ってコルドーの元を飛び出し、ムンムン達のところへやってきたのだ。北部支社が気に入ったミンミンは、クリーン悪トリオに加わってタイムリース社妨害の任務についてゆくことに。

土井美加が演じる役の中では珍しい、無邪気で小悪魔的な芝居が目立つミンミンに注目。面食いのミンミンが、敵であるイッパツマンのファンになる様は楽しい。



第17話　潜入！ タイムリース社

タイムリース本社ビルにFBIの捜査員が訪れた。彼らによれば、時限爆弾が仕掛けられているという。全社員が避難する中、捜査員はトッキュウザウルスの格納庫へ。捜査員の正体はコスイネンとキョカンチンであり、爆弾騒ぎはトッキュウザウルスに爆弾を仕掛けるための芝居だったのだ。その直後タイムリースの依頼が入り、ランたちは1760年のカリブ海に向かう。例によって３悪の妨害工作でピンチになったランたちの元へ駆けつけたイッパツマンは、逆転王へと合体するが……。



第18話　ハル坊の両親を捜せ！

今日はハル坊の母親の誕生日。プレゼントのケーキを届けたいハル坊は、無理を承知で19世紀のオーストラリアに赴任している両親に会わせて欲しいとランにお願いする。私用でトッキュウザウルスを使うことは禁じられているのだが、ランたちは豪に内緒でハル坊の両親の元へと向かった。ところが現地に着いてみると、リース依頼を受けたハル坊の両親はジャングルの奥地へと向かったまま、行方が分からなくなっていると聞かされる。

今回より右足をモジった解説キャラ"子々竹はだし"が登場。



第19話　T.V中継ベーブルース

ランたちは1926年のニューヨークにテレビ中継セットを届けることになった。NYヤンキースのベーブルースの試合を、病院で寝ている少年に見せるためだ。その頃キョカンチンは、球四郎の紹介でお見合いをしていた。ところがムンムンとコスイネンに、面白半分でお見合いを妨害されてキョカンチンはガックリ。そこへ会長からの指令が届き、３悪も1926年のニューヨークへと向かう。

野球がキャラのネーミングのモチーフとなっている本作にふさわしいエピソードだ。



第20話　石器時代にカネ送れ！

タイムマシンで石器時代に向かった考古学者のフルイ博士。ところがマシンが着陸したとき、原始人の家を壊してしまい、現金で弁償しなくてはならなくなった。博士からの依頼で、ランたちは石器時代の石製貨幣を送ることとなる。もし日没までに届かなければ、タイムリース社の現地営業部員の西尾ももが原始人のお嫁さんにならなければいけないのだ！　果たして間に合うのか？

今回、ヒゲノ部長がチラリと登場。豪の秘密を知っているような素振りを見せる。



第21話　金欠部長コスイネン

社内で仕事をしていた豪は、何者かの仕業によって事故に遭い、負傷してしまう。幸い怪我はたいしたことなくランは一安心。そんな時タイムリースの依頼があり、トッキュウザウルスは1900年のオランダへ出発する。その妨害指令が３悪に下った。地方にいる妻子が上京するため急遽現金が必要になったコスイネンは、今回の任務でボーナスが出ると聞き大ハッスル。ピンチに陥ったハル坊が通信を送ると、いつものようにイッパツマンが現れた。やはり豪はイッパツマンではないのか？



第22話　魔法責めイッパツマン

シャレコーベリース社の支社長会議でなじられて、相変わらずへこみまくっているムンムンを見かねたミンミンは、どこからともなくたくさん契約を取ってくる。だが、それらはどれもサービス過多な赤字契約で、ムンムンたちは真っ青。一方、ランやハル坊はイッパツマンの正体について色々と考えを巡らしていた。そんな中、628年シルクロードの三蔵法師一行に耐熱服を届けるという仕事が入ってくる。



お色気シーン満載のこの回。ファミリーや子供向けの番組でありながら、遠慮せずこういうシーンを出すのはタイムボカンシリーズならでは。

第23話　合体不能！ 逆転王

ランたちは、2-3が録音したイッパツマンの声が豪と瓜二つであることを知る。そんな時リースの依頼が入り、トッキュウザウルスは1834年の江戸の北斎へとヘリを届けに向かった。遅れて到着したクリーン悪トリオが、北斎が乗るヘリに攻撃を仕掛けてきた。ピンチ通信を受けてやってきたイッパツマンは、3悪の巨大メカに逆転王で立ち向かおうとする。その時コスイネンが製造した磁場分解光線砲から放たれた磁力ビームによって、弾丸ヘッド号は逆転王への合体を阻止されてしまった！



第24話　消えたホームベーサー

10世紀の足柄山にクマ型ロボをリースすることになったランたち。しかしハル坊は熱を出してしまい、今回は留守番だ。そこへ例によって3悪の妨害工作が。ハル坊の看病をしていた豪は、2-3からのピンチ通信を受けてホームベーサーへと向かった。熱に浮かされながらもその後を追ったハル坊が見たものは、カプセルに入った豪とイッパツマンだった。ハル坊からその話を聞いたランたちは本社ビルの最下層へと行くが、そこにホームベーサーの姿はなかった……。



第25話　こまった！ 大コマ回し

トッキュウザウルスは、18世紀の国分寺へ巨大コマを回すためのコマ回しメカを届けることになった。それを妨害する任務がクリーン悪トリオに下る。

第13話で豪が訪れていた秘密研究施設が今回の冒頭にチラリと登場。球四郎と豪が初めて直接相対する場面などもあり、前回の豪とイッパツマンについての謎の伏線と併せて、シリーズ前半のクライマックスへのお膳立てがほぼ揃うことに。



第26話　シビビーン大変身！

ムンムンたちは会長に内緒で鬼ヶ島へタイムトラベルして、金銀財宝を奪いに行く計画を立てる。ところがたどり着いたおとぎの世界は、光線の関係でみんなチビキャラになってしまう世界だった。一方ランたちは、相変わらずイッパツマンの正体について話し合っていた。彼女は一計を案じ、豪の指紋を採取してイッパツマンの指紋と比べてみることを思いつく。



全キャラが2頭身キャラに変身してしまうイベント性の強い話。しゃべり口調までカワイクなってしまうのもミソ。

第27話　地球の底で大激戦！

タイムリース社がボーナスの出たその日、シャレコーベリース社では、ボーナス支給と遅配分の給料を要求してミンミンと社員たちがストライキを行っていた。そこへ1863年のアイスランドの休火山の火口へと向かうランたちを妨害する指令が下る。任務成功の暁には支社の全員へのボーナス支給の約束を取り付けたムンムンたち。コスイネンは対イッパツマン用の強化服・ワンタッチモビルスーツまで繰り出して奮闘するが、果たして見事ボーナスを手に入れられるのか？



第28話　見よ 逆転サンパツマン

17世紀のフランスからのリース依頼を受けたタイムリース社。その妨害指令がいつものように3悪に下った。だがコスイネンは敢えて現代に残り、ピンチの時は通信を送るようにムンムンに伝える。そして毎度イッパツマンが現れたその時ムンムンが通信を送ると、時空の彼方から、コスイネンが変身したサンパツマンが現れた！

対イッパツマン用装備のサンパツマンやドンコウシャレコーベをはじめとして、徹底的にイッパツマンをパロディ化して遊んでいる爆笑傑作篇だ。



一発ギャグキャラコレクション❷



①びっくり主水：「あ～びっくらたまげた門左衛門！」のセリフとともに驚いた出来事があった時に現れる。顔が栗と下駄というダジャレなのはご愛嬌。②ヤカン：「ヤカン、アカン、あかんがな～」と言ってからプー！と勢い良く蒸気を出す。「それ、いわんこっちゃない」と言いたげな表情と口調が特徴的。③ソーダを飲む男：ソーダを飲んで「そりゃそーだ、ウッウン」というセリフを放つ。これもダジャレパターンだが、キャラのデザインも含めCMアニメっぽく洗練された印象を受ける。

第29話　幽霊屋敷は大にぎわい

昼食をミンミンにおごってもらったキョカンチンは、彼女が自分のことを愛していると勘違い。同じ頃、現代のリキムトヘーデル市にある幽霊屋敷と呼ばれるアパートからの依頼で、トッキュウザウルスは幽霊退治人を届けることになった。ところが退治人は体調不調で、結局ランたちが幽霊退治をすることに。だが、幽霊は偽物でランはそれを簡単に見抜いてしまう。しかし、ホッとしたのもつかの間、その直後にクリーン悪トリオに捕まってしまった! 山本正之が歌う挿入歌『嗚呼! 逆転王』が、今回初めてボーカル入りで使用されている。



第30話　シリーズ初! 悪が勝つ

コスイネンは2週間も無断欠勤して、ついにイッパツマンを倒す秘策を編み出した。コスイネンの一世一代の作戦が今幕を開ける。一方球四郎も、イッパツマンをダイアモンド弾丸で狙撃する計画を立案し、3悪の行動をマークしていた。偽の依頼で3悪の罠に落ちたランたちからの連絡を受けて出撃したイッパツマンだったが、コスイネン特製の瞬間硬化弾によって逆転王もろとも身動きを封じられてしまう。その時、球四郎が用意していた必殺武器・ダイヤモンド弾丸がイッパツマンの肉体を貫き、木端微塵に粉砕してしまった!



第31話　登場! 新イッパツマン

イッパツマンが死んだ……。今まで豪がイッパツマンであると信じていたたランにとって、それはショッキングな事件だった。ランたちは本社に帰還後、すぐに豪の安否を確かめようとしたが、彼の姿はどこにも見当たらない。仕事に向かう気力も削がれるほど落ち込んだランだったが、他支社から転属してきたハルカの激を受け、新メカ・トッキュウマンモスで出動する。現地で毎度の如くムンムンたちに襲われるランたちは無駄と知りつつも豪にピンチ通信を送る。だが、その時奇跡は起こった!!



第32話　イッパツマンの大秘密

復活したイッパツマンにピンチを救われ、本社で豪と感動の再会を果たしたランたちは、彼からイッパツマンがサイキックロボットであることを初めて明かされる。一方、イッパツマンの再起の報を耳にした球四郎は、再びダイヤモンド弾丸で息の根を止めようと息巻いていた……。

新旧のイッパツマンの正体が明かされるターニングポイント的な話。両者ともSF的な設定を上手く用いた上で視聴者の意表をつく描かれ方がされているのが見事。この回から物語後半の迷バイプレイヤー・今市が登場している。



第33話　モンタージュで御用だ

ランたちは18世紀の大江戸にモンタージュ合成機とコピー機を届けることになった。岡っ引き“銭無しの親分”が神出鬼没の怪盗“流し目の悪太郎”をお縄に掛けようと、その顔を知る唯一の男“大工の為五郎”の証言からモンタージュ写真を作ろうというのだ。ところが、タイムリース社の信用を落とさせるため、コスイネンは為五郎の女房を人質に取り、彼に嘘の証言をさせようとする。だが、それが逆に恨みを買ってしまい、なんとコスイネンの顔が悪太郎の人相書きとして世に出回ってしまう。



第34話　ケッパレ研修悪トリオ

シャレコーベリース社で年に一度行われる“ケッパレ研修”。ルーレットで選ばれた支社の幹部が様々な場所や時代に派遣され、品物をリースして儲けないと現代に帰れないという研修に、今年はオストアンデル北部支社が選ばれてしまう。シャレコーベダチョウにリース品を積み込んで営業活動を行うが一つも契約を結ぶことができない。ところが、18世紀のイタリアでライオンを必要とするサーカス団を見つけたムンムンたちはタイムリース社の品物をリースして改造し又貸しすることを思いつく。



第35話　転職失敗! コスイネン

ミンミンが2ヶ月も世界旅行をしている間に、シャレコーベリースオストアンデル北部支社は大変なことになっていた。本社からの連絡は途絶え、仕事の注文が一切入らず支社は危機に瀕していた。そればかりでなく、コスイネンがモーカル産業株式会社の幹部に転職し、オストアンデル北部支社を乗っ取るという話まで出ていた。ところがコルドー会長がすでにモーカル産業を買収しており、コスイネンは元のポジションに逆戻りするはめに……。

会社の買収劇をコミカルに皮肉った一篇だ。



第36話　おまえは何者? 球四郎

うえだ屋の親父の招待で超高層ビルの中の屋台で食事をしていたムンムン達は、そこで商談に現れた球四郎と鉢合わせる。影ながら球四郎を見張っていたコスイネンとキョカンチンは、その商談相手がタイムリース社の社員であることを確認する。そのことを聞いたムンムンは、球四郎がタイムリース社と裏で通じている証拠を掴もうと彼を追跡することに。球四郎は何を企んでいるのだろうか?

打倒イッパツマンに燃える球四郎の活動の一端を思わせる意味深なストーリーだ。



第37話 スパイにされた2-3

2-3は公園で出会ったピロ子という女性型ロボットといいムードになり、お付き合いすることに。だが、実はピロ子は2-3を拉致するためのおとりとしてコスイネンが製作したロボットだったのだ。まんまと罠に嵌まってしまった2-3は、コスイネンによって体内に盗聴器を仕掛けられてしまう。これでムンムンたちはトッキュウマンモスの行動を常に先回りして今までより完璧な邪魔をすることに成功する。さらに2-3自身が3悪に制御されてしまい、ランたちをピンチに陥れてしまう。



第38話 ミスターX 見つけた!

ムンムンを始めとするクリーン悪トリオの4人は、かねてから要注意人物と睨んでいたメカニックマン・豪の正体を調査するため、タイムリース本社に潜入。そこでムンムンは、憧れの君・ミスターXと再会することに。だが、運命とは非情なもの。メカニックルームでの豪とランの会話から、ムンムンはミスターXが豪であることを知ってしまう。ショックもつかの間、彼女はミンミンとキョカンチンを豪に張り付かせ、彼がイッパツマンに変身して出動する現場を押さえようとするが……。



第39話 大ピンチ! 捕われた豪

電話で呼び出されたムンムンと落葉舞い散る並木道を一緒に歩いていた豪は、銀行ギャングに扮したコスイネンとキョカンチンに誘拐されてしまう。そして、樽に詰められ、倉庫の中に閉じ込められてしまう。だが、これは豪がイッパツマンであることを確かめるためにクリーン悪トリオが仕組んだ罠だった! ピンチ通信を受けて脱出しようとした豪がその周囲に張り巡らした赤外線センサーに触れた瞬間、倉庫内に仕掛けた爆薬で木端微塵にしてしまう作戦なのだ。危うし、豪!!



第40話 仲人はコスイネン夫妻

シャレコーベリースオストアンデル北部支社の社員、千波と聖子が結婚することになり、その仲人をコスイネン夫妻が務めることになった。そして結婚披露宴当日、発注されていた全長10メートルの特注ウェディングケーキが急遽届かないことが判明し、代替の品をやむなくタイムリース社に届けてもらうことに。だが、いつも通りコルドー会長からランたちの邪魔をするよう命令が下るも、コスイネンを始めとする3悪はそこまで人の道に外れたことはできないと今回ばかりはボイコットを決意!



第41話 助っ人オタスケマン

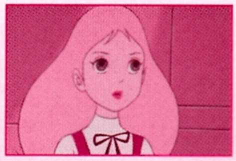
タイムリース社大運動会の新競技“タイム貸し物レース”に参加したランたちは、弁慶に七つ道具を貸すために12世紀の京都・五条大橋へ向かった。ところが、彼女たちよりも先に3悪が機関銃を弁慶に渡してしまった。これでは確実に弁慶が牛若丸に勝ってしまい、歴史が変わってしまう。ランたちが困っているその時、タイムパトロール隊から連絡を受けたオタスケマンが参上した!

『ヤットデタマン』以来となるささやきレポーターと小山カメラマンの登場もファンにはうれしいところだ。



第42話 暴かれたハルカの秘密

ハルカが優れた超能力者であるという情報を入手した球四郎は、彼女がイッパツマンと深い関係にあるのではないかと推察。そこで彼はハルカの確かな素性を調査するため、ムンムンたちと共に14年前の彼女の出生地へ向かった。球四郎たちは、現地でハルカの父親・星太陽を誘拐し、その場に呼び寄せた彼女に超能力を使って救出させる作戦を企てる。ハルカは、若かりし頃のヒゲノ部長にむやみな超能力の使用を注意されたばかりだった。だが、父親を助けるためにやむなくその力を解放した!

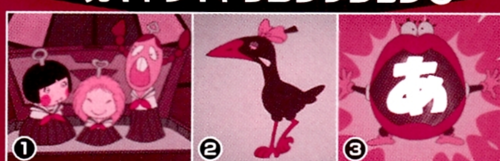


第43話 負傷! 狙われたハルカ

前回の調査でハルカが超能力者であることを確信した球四郎は、部下のスパイ000をタイムリース本社に潜入させ、社内の作業用ロボットをコントロールして彼女の命を狙わせた。しかし、その時偶然にもハルカに変装していたランは彼女の身代わりに負傷してしまう。一人養生していたランだったが、ふと部屋の外へ出るとハルカと豪が連れ添っている姿を見かけてしまう。そして、ランはホームベーサーの中へ降りていった2人が、深く抱き合っている姿を目撃してしまうのだった。



一発ギャグキャラコレクション③



①女子高生メカ:女子高生の会話から生まれた放映当時の流行語「ウッソ~ホント~カ~ワイイ~!」をピックアップしたキャラ。タイムボカンシリーズといえば昔から女子高生はつきものだったので、かなり狙ったキャラといえよう。②ヤンバルクイナ:1981年に沖縄島で発見された"飛べない鳥"。それに例えて物事を成す能力が最初から欠如している者を形容している。③「あ」メカ:大口空けて、その中に「あ」と文字が出る。軽い驚きの場面で漫画の書き文字の如き役割を果たす。

第44話　ああ ハルカと豪の秘密

今、ランたちに明かされる豪とハルカの関係。実は、ハルカはイッパツマンをよりパワーアップさせるために、サイキックウエーブを送るサポーターの役割を果たしていたのだ。仕事上のパートナーとはいえ、豪とハルカの結びつきが今まで考えていた以上に強いものであったことにショックを受けたランは、一人街をさまよう途中でムンムンたちと出会う。サイキックロボットのノウハウを狙うコルドーの情報を探るため、自らムンムンたちの罠にはまり、彼女の別荘へ向かうことに……。



第45話　コルドー会長の謎の島

自分も豪の力になりたい……その想いによって、コルドー会長の別荘に潜入したラン。だが、到着するなり彼女は監禁されてしまう。一方、ランの残した置き手紙を発見した豪たちは、彼女の安否を真剣に心配していた。皆が心配する中、豪はランにプレゼントしたペンダントのことを思い出す。ペンダントに内蔵された発信機の信号を頼りにランを探そうというのだ。その頃、ランは別荘から脱走を試みるも球四郎に捕まってしまい、記憶再生装置によってイッパツマンの秘密が暴かれようとしていた。



第46話　ムンムンの恋の終わり

ムンムンは、ナンダースホームの子供たちと一緒に、豪をクリスマスパーティーに招待した。ところがどこでどう間違えたのか、彼女が用意していたパーティー資金が会社の部下たちが呑み食いするために使われてしまっていた。だが、コルドー会長から思わぬご褒美が！　前回ランを拉致したことが評価され、白雪姫の時代でのパーティーをプレゼントされたのだ。楽しい一時を過ごす豪や子供たち、そしてムンムン。しかし、実はこのパーティー、豪を捕獲するためにコルドーが仕組んだ罠だった。



第47話　初夢コスイネン四変化

新年を迎えたが、電車賃が無くて妻子のもとへも帰省できないコスイネン。せめてもの正月気分を味わおうと、思い通りの夢が見られるドリームマシンを使って楽しい初夢を見ようと試みる。もちろん、希望する夢は打倒イッパツマン！　さまざまな舞台で江戸時代の殿様、西部のガンマン、動物暴走族のリーダー、そしてお代官様と四変化して活躍するも、どうしても最後は負けてしまうのだった。

バラエティ色豊かな番外編。3悪と同じくイッパツマンも四変化するのがとても楽しい。



第48話　78歳 ムンムン快調

大雪に見舞われた街に成人式の晴れ着100人分を運ぶランたちを新年早々追いかけるクリーン悪トリオ。だが、豪との悲恋が尾を引いて暗い気持ちのムンムンは、いつまでもこんなことをやっているのかと、ふと50年後の自分に思いを巡らす。立ち食いソバ屋チェーンの社長となったコスイネン、世界最強のプロレスラーとして活躍したキョカンチン、中年太りのミンミンと再会したムンムンは、現役で活躍しているランたちに負けてなるものかと、元の部下たちとクリーン悪トリオを再結成する。



第49話　球四郎は死んでいた

イッパツマンを執拗に付回す隠球四郎を警戒したヒゲノ部長が彼について調べたところ、大学の卒業者名簿に記載されていないことや戸籍の偽登録などが浮かび上がってきた。そして豪とハルカがさらなる調査をした結果、驚くべき事実が判明。また同じ頃、ムンムンたちも球四郎の生家を訪れ、同じ情報を入手していた。なんと彼は大学生3年生の頃に無理なダイエットが祟り、栄養失調で死亡していたことが判明。3悪からその事実を聞いた球四郎は僅かながらも動揺を抑えることができなかった。



第50話　ハルカの部下ミンミン

球四郎は豪とイッパツマンの体格と内部骨格が一致することで、両者が同一人物であることを立証。さらにイッパツマン発進基地の場所を突き止めるため、球四郎はミンミンをタイムリース本社へ送り込んだ。技術部管理課の社員・リンリンとして潜入したミンミンは、豪をマークしていたが、一向に出動する気配がない。そこでミンミンは球四郎を焚きつけ、巨大ロボを使ってタイムリース本社を攻撃させ、イッパツマンをおびき寄せようとする。この罠に気付いたハルカは、豪にある作戦を授ける。



第51話　謎の飛行物体をさがせ

UFO研究家のブランコ氏の依頼によって、ランたちは1990年のヨウトホエール沖に浮かぶラクダ島へ特殊潜水艇を届けることになった。リース品はその年の1月の始め頃にラクダ島近くの海面に落下した大きな火の玉を調査するために必要とのことだが、その情報を聞いたコルドーは何故か大あわて。クリーン悪トリオにランたちを絶対に島へ近づけないよう命令するなど、ムキになる様が尋常ではない。あの火の玉とコルドーは、何やら大きな関係があるようだ。



第52話 コルドー監督の迷映画

シャレコーベリース社では、毎年創立記念日の翌日に従業員とその家族に向けての慰安映画大会が行われていた。その大会用に制作される作品は毎年コルドー自らが企画・脚本・演出を担当していることで知られており、今回も会長の手による作品が上映されようとしていた。その内容は、原始時代を舞台に業界トップのシャレコーベリース社の中でも一番の業績を誇る北部支社のリース運搬を、三流会社のタイムリース社が妨害するという、現実とはまるで正反対のものだった。



第53話 裏切ったイッパツマン

球四郎とスパイ000は、打倒イッパツマンのために有利な情報を入手しようと国際平和機構の秘密基地内にあるデータルームに潜入し、大量のディスクを強奪した。その中には、何と豪とハルカのサイキックウエーブ送受信に関するデータが含まれていた！ このデータを解析した球四郎はハルカと同じ波長で、より強いサイキックウエーブを発信できる装置を開発。そして、いつものようにピンチ通信を受けて現れたイッパツマンは事もあろうに球四郎の操り人形と化してしまう。



第54話 ああ結婚 ハルカと豪

球四郎にハルカが発するサイキックウエーブの波長を解析されてしまったことで、彼にコントロールの主導権を握られてしまったイッパツマン。新たな弱点の露見によってイッパツマンが完全に無力な存在と化してしまったことで、それを克服するために豪とハルカは新たな波長のサイキックウエーブを作り出さなくてはならなかった。

その頃、ランのもとへ豪とハルカが結婚するという話が飛び込んできた。この急な話にショックを受けたランは、ただ悲しみに暮れるしかなかった……。



第55話 襲われたハネムーン

ランの悲しみをよそに、2週間の新婚旅行へと旅立っていった豪とハルカ。だが、今回の結婚劇には裏があると睨んだコルドーの命令によって、クリーン悪トリオは彼らを追跡・監視することに。さらに球四郎とミンミンも隙をついて豪とハルカを誘拐しようと彼らを付け狙っていた。その頃、ランたちはバレルトコマール山脈のチチハハ湖にあるイッパツマン秘密基地に連れてこられていた。そこで彼女らが目にしたのは、必至に新サイキックウエーブ開発を行っていた豪とハルカの姿だった！



第56話 わかるか 球四郎の正体

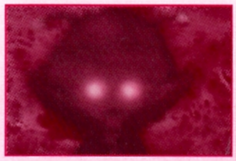
前回のイッパツマンとの戦いにおいて、身体を撃ち抜かれても無傷だったことに疑問を抱いた球四郎は、その謎を解明しようと病院でレントゲン検査を受けていた。だが、そこで判明した衝撃の事実に、彼は茫然自失となってしまう。さらにその場に居合わせたムンムンたちも彼のレントゲン写真を見てビックリ。球四郎の正体は、機械の身体を持つサイボーグだったのだ！ 人間であることの誇りを失った彼は、自身の存在意義をそこに求めるかの如く、一層“打倒イッパツマン”に燃えるのだった。



第57話 コルドーの意外な正体

ヨウトホエール岬の沖にあるコルドーの別荘に招かれたムンムンたちと球四郎は、突然そこでいきなりクビを宣告！ さらにシャレコーベリース社を倒産させることも告げられてしまう。すがる球四郎を尻目に、コルドーは「自分にはイッパツマンを確実に倒せる切り札がある」という一言を放ち、彼らを完全に見捨ててしまうのだった……。

これまで謎とされてきた会長の正体がついに判明。また、コルドーは念願のサイキックロボットの設計データの入手に成功し、話はクライマックスを迎える。



第58話 大逆転！ 愛ゆえの勝利

ハルカがサイキックロボットのデータを盗み出し、コルドーのもとへ向かうという信じられない事件が起こった。彼女は14年前よりサイキックロボット開発要員となるべく超能力の強化訓練が続けられていたが、8年前の夏に一週間行方不明になった後、急激に念力能力が高まったというデータが残っている。実はこの時点でハルカはコルドーに目を付けられており、捕われ洗脳されていたのだった。そして、コルドーにさらなる洗脳を加えられた彼女は、豪を倒すための刺客と化して彼の前に現れた！



一発ギャグキャラコレクション④



①子々竹はだし：右足の指をそれぞれお母さん、子供、おばあちゃんという家族に見立てた解説キャラ。「ここだけの話ですが……」から始まる親指母さんの解説に他のみんなが「ウンウン」とうなづく。②すくわれないドジョウ：ドジョウがドジョウすくいやってるシュールなキャラ。救われない状況にある時に冷やかしで登場。③ブタシリーズ：古くは『ヤッターマン』のおだてブタから始まったギャグキャラの元祖。その後シリーズ通してバリエーションが増え、『逆転イッパツマン』ではその数は最多となっている。演じるのは富山敬。写真の「にくまれブタっ子、世にはばかる」のようにことわざや格言をパロっている。実は教養が無いと真に楽しめないギャグだった!?

――小山さんは『イッパツマン』の企画書も書かれていますが、この作品にサラリーマンの要素を入れようとした経緯について教えて頂けませんか。

企画の最初の頃から、『イッパツマン』をリース会社を扱った作品にするということは決めていたんです。会社が舞台になれば登場人物はサラリーマンになるんだけど、そうなると必然的に3悪はダメ社員にならざるを得なかった（笑）。

――サラリーマンが持つリアルな哀愁を３悪に背負わせていましたよね。

話を進めていくうちに「みじめなサラリーマン」である3悪に僕らスタッフも共感していくようになった。それで彼らのキャラクターをより掘り下げるようになって、徹底的にサラリーマンの悲哀を描いてその中で笑いを取るようになっていったんだよ。もちろん、これまでのシリーズにおける3悪のキャラクター像もかなり意識しましたね。

――３悪って人間味が溢れていますよね。キレイ事だけではないところも含めて、そういう部分が大事に描かれているように見えるのですが。

僕らには彼らの気持ちが手に取るように分かるんだよね。３悪の描き方には「清濁あわせて飲む」みたいなところがあるわけじゃないですか。だから身に染みるというか。でも「人間やめてどうなる?」って言っていても、最後には「人間やっていて良かった」となる訳。「人生色々あるけれど、やっぱり生まれてきて良かったなあ」と見ている人に思ってもらいたいというのは、作品の送り手側である僕らにとっては基本の想いだからね。

――『イッパツマン』は伏線の張られ方や謎が明かされるタイミングからみて、全編の展開を見越した上で綿密なシリーズ構成が成されていたようにみえるのですが、実際はいかがだったのでしょうか。

それがそうでもなかった。連載漫画と同じようなもので、『イッパツマン』も話を転がしながら広げていったわけ。キャラクターが上手く動いてくれて、そのキャラを追いかけていった結果、あのような展開になっていったんだろうね。もちろん、第13話で豪の出生の秘密を描いたり、第30話で３悪が勝ったりと、シリーズの途中ごとにポイントとなる話を置いていったけど、ラストの展開は全然考えていなかった。でも結果として、話が流れていく上で自然に展開していったからこそ、あそこまで生きた物語になったんだと思うね。最初から考えて作っていたら、たぶんああいう話は作れなかったかも。

ただ、『イッパツマン』ではこれまでのタイムボカンシリーズのパターン崩しをやろうということは、スタッフ間で企画段階から話していました。僕らはタイムボカンシリーズのことを「偉大なるマンネリ」って言ってきたんだけど、この辺で少し違う試みをしてみようと思ったんです。本編中盤で「シリーズ初!　悪が勝つ」のようなエピソードを入れてみたり、それまでは最終回とその前の回を前後編にして結束をつけていたけど、物語の途中から徐々に伏線

小山高生

［シリーズ構成・脚本］

『楽しく遊ばせてもらえた作品でした』

――タイムボカンシリーズは１話完結方式で毎回決まったパターンの話が放映されていく……というのが『ヤットデタマン』までのお約束だったのが、『逆転イッパツマン』では大河ドラマ的な構成になっていたのがとても新鮮でした。

謎や伏線を次々に張っていくという、起伏に富んだ展開だったからね。タイムボカンシリーズのファンの中には今でも『イッパツマン』のことを好きだと言ってくれる人が多いんだけど、それはきっとそういったストーリー展開の部分を気に入ってくれているんだと思う。

――タイムボカンシリーズはファンの年齢層の幅が広かったですよね。

「うちのお父さんは学校の先生だけど、土曜の6時30分には必ず家にいてタイムボカンシリーズを見ています」って、当時ファンレターをくれた子がいたくらいだよ。

――タイムボカンシリーズはお笑いバラエティー番組的なノリがありましたから、それも万人を惹き付ける要因だったのでしょうね。

あと、『イッパツマン』はサラリーマンの悲哀を描いていたじゃない?大人も見ていて身に染みたんじゃないかな。うえだ屋で３悪がグチって「人間やめてどうなる?」ってやったりとか。アレ、見ている分には笑えるけど、実はものすごく深刻な状況なんだよね。そういうところが世の中のお父さんの共感を得られたんじゃないかな。

小山カメラマンのボカン懐古録



←小山高生さんをモデルに作られたキャラクター「小山カメラマン」。『ヤットデタマン』より登場。あまりにも長身なため頭が雲を突き抜けてしまい、いつも顔が見えないキャラだった。だが、『イッパツマン』第52話でコルドーの来賓として登場した時に、初めてテレビの前のファンにその顔を披露した。

を張っていこうと決めていました。

——では、キャラクターのポジションみたいなものも話が展開していく中で考えられていったのですか。

そうですね。コルドーがラストであんな立場になるなんて最初は全然考えていなかったし。ミンミンにしても本編をやっている途中から生まれたキャラだしね。当時、アフレコが終わると声優さんたちと夕飯を食べていたのが「珉珉(ミンミン)」という中華料理屋で、彼女の名前はそこからもらったわけ。『ヤットデタマン』のカレン姫を演じていた土井美加さんの声が結構良かったんで、彼女を使うキャラを作ろうとしたのがきっかけでしたね。ヒゲノ部長も最初はホントに脇役だったのが、長堀さん（現：郷里大輔さん）の演技が面白くてだんだんキャラを膨らませていくようになったんだ。星ハルカはたくさん張った伏線の種明かしをするために作ったキャラなんだけど、その名前は『巨人の星』で伴宙太を演じていた八奈見さんに「星〜!!」と叫ばせたい一心で付けた（笑）。実際、八奈見さんにはどこかで一回叫ばせたんじゃないかな（編注：第54話でそういうセリフがあります）。最終回では豪を喰う勢いのキャラになっていたし、僕自身とても思い入れがありますね。

——キャラクターのネーミングも小山さんが担当されていたのですか。

ええ。『イッパツマン』のキャラは野球にちなんだ名前を付けてましたね。「剛速球」で豪速九、「ホームラン」で放夢ラン、「クリーンナップ」からクリーン悪トリオ、「隠し球」で隠球四郎とか。2-3とかホームベーサーはそのまんまですね。この頃、私のところに通ってきていた脚本家志望の中弘子さんにもネーミングを協力してもらっていました。「ファールボール」から引用したハル坊は彼女が名付け親ですね。ムンムン、コスイネン、キョカンチンは読売広告社の内間さんのアイデアでロシア風の名前にしています。コン・コルドー会長は、「コンコルド」という超音速旅客機が「怪鳥」って愛称で呼ばれていたことから名付けたんです。あと、地名では平賀源内が作った和製英語と言われている「オストアンデル」をパクったり。あれは「押すと餡出る」で饅頭のことなんだよ。他にも色々モジって、「ヒネルジャー市」は水道の「捻るとジャー」だし、「キバルトヘーデル市」（気張ると屁出る）「バレルトコマール山脈」（バレると困る）とか、確か隠球四郎の本籍地はヨウトホエール市セイシュ通り1-1だったはず。もちろん「酔うと吠える、清酒通り」＝酔っぱらいです。

——第1話で豪がイッパツマンに変身する（実際は豪がイッパツマンにサイキックウエーブを送って出動させる）という肝心なシーンは描かれてないですよね。やはり、あれは秘密を隠しておくために?

通常だと1話でイッパツマンの正体も分かるわけじゃないですか。でも、「もしかしたら豪じゃないかもしれない」と視聴者に気を持たせようという作戦はありました。

——今までのシリーズの常識と、イッパツマンの発進プロセスをこと細かに描いているところから見事にだまされましたね。

発進を細かく描いたのは笹川さんのアイデアだね。

——サイキックロボットを初めとするSF設定にもかなり唸らせられましたが、あの辺の設定はどのように考えられたのですか。

SF設定は『キャシャーン』とかもやっているSF考証の小隅黎さんに全てお願いしました。「ダイヤモンド弾丸ならイッパツマンを倒せる」とかアイデアを頂いて、設定面でしっかりと辻褄を合わすことができました。

——小山さんが手掛けた歴代タイムボカンシリーズの脚本の中で、『イッパツマン』が一番本数が多いのですが。しかも、連続して書いている話も多いですよね。

物語前半の方は結構色々なライターに書いてもらっているんだけど、後の方になると設定に関する話が多くなってくるので、それらを逐一説明するのが大変になってたわけ。自分で書いてしまった方が早いということになって、後半はほとんど僕が担当してますね。先ほど「綿密なシリーズ構成云々」と言われていたけど、それは僕が1人で書くことで、話の流れを細かくコントロールできたのも大きかったと思いますね。

——『イッパツマン』では全編通して豪とランの恋愛話が描かれていますが、これも最初から考えられていたのですか。

そうですね。今までのシリーズの作品よりも登場人物の年齢設定が高めなので恋愛話も無理なくできたからね。『ヤッターマン』のガンちゃんとアイちゃんではこうはいかない（笑）。視聴者に対して、豪とランの関係をやきもきさせようというのは初めから考えていました。ハルカが出てきて三角関係になるというのは予想外だったけど、これも大人のキャラが織り成す話だから、自然とそうなっていったんじゃないかな。

——小山さんが印象に残っている話がありましたら教えて頂きたいのですが。

当時、『おれたちひょうきん族』というバラエティー番組があって、それをダジャレにした「氷金属」っていう氷でできた金属で作られたメカを出したんだ（編注：第45話で登場）。氷でできているから、溶けて負けちゃうの。「氷の金属なんてあるわけねーだろ!」って普通言われちゃうんだけど（笑）、タイムボカンシリーズは思いついたことは何でもできるいい作品だったね。

——最後に小山さんにとって『イッパツマン』とはどのような位置を占める作品であるか教えて頂けませんか。

僕がこの30年間アニメ脚本家をやってこれた大元を作ってくれたのがタイムボカンシリーズだと思っています。『イッパツマン』はその中でも一番多く、ノリノリで脚本を書かせてもらえたので、楽しく遊べた上に自分としても手ごたえのあった作品です。それに笹川さんやうえだ君をはじめ、『イッパツマン』に関わったスタッフはみんなあの頃が絶好調だったように思います。きっと天・地・人が集ったシリーズだったんでしょうね。そういう意味でも『イッパツマン』は僕の大切な財産ですね。

●インタビュアー・構成：谷澤光一（BEANKIDS）



PROFILE

タツノコプロダクションの企画文芸部に入社し、タイムボカンシリーズには企画当初から参加。『ゼンダマン』で文芸担当、『ヤットデタマン』以後はシリーズ構成として活躍。代表作『聖闘士聖矢』、『ドラゴンボール』など。現在は脚本家集団「ぶらざあのっぽ」の代表取締役。

FILMOGRAPHY

※基本的に放映当時の本編エンディングテロップの表記を参考にリストを制作しています。ただし、テロップの表記が間違えている場合には、正しい表記に統一しています。さらにテロップに記載されていない絵コンテ担当者については、竜の子プロ社内制作のリストから引用しております。

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督・原画作監	原画
1	ピンチ一発 大逆転!	小山高男	笹川ひろし	植田秀仁	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲、高木敏夫、多賀一弘
2	ライバルはすごいヤツ	小山高男	植田秀仁	藤原幸大	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
3	人間やめた悪トリオ	海老沼三郎	鴫野　彰	鴫野　彰	鈴木英二	村松ひさお、芝崎　計、時矢義則
4	ひとめぼれミスターX	三宅直子	真砂智康	古川順康	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲、芝崎　計
5	ホームベーサーの秘密	久保田圭司	鴫野　彰	鴫野　彰	井口忠一	高木敏夫、多賀一弘
6	全公開! 部長の一日	高山鬼一	石山貴明	石山貴明	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
7	イッパツ急行医療隊	山本　優	真砂智康	古川順康	鈴木　満	松下佳広、和泉絹子、時矢義則
8	豪ピンチ通信応答せず	海老沼三郎	石川康夫	石川康夫	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
9	ギョ!? 魚との遭遇	佐藤和男	鴫野　彰	鴫野　彰	鈴木英二	本多　哲、貴島優子、鈴木喜子
10	つらいなァ! 休日出勤	三宅直子	丸輪　零	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
11	打倒! アルプスの魔女	高山鬼一	真砂智康	石山貴明	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
12	京都めざして大レース	久保田圭司	鴫野　彰	鴫野　彰	鈴木英二	高木敏夫、多賀一弘
13	豪・その出生の秘密	小山高男	石川康夫	石川康夫	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
14	太平洋無着陸気球横断	海老沼三郎	丸輪　零	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
15	にせリースで罠をはれ	佐藤和男	真砂智康	石川康夫	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
16	おしかけ美少女社員	海老沼三郎	鴫野　彰	鴫野　彰	井口忠一	井口忠一、貴島優子、鈴木喜子
17	潜入! タイムリース社	高山鬼一	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
18	ハル坊の両親を捜せ!	佐藤和男	鴫野　彰	鴫野　彰	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲
19	T.V中継ベーブルース	海老沼三郎・小山高男	石川康夫	石川康夫	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
20	石器時代にカネ送れ!	海老沼三郎	神井裕行	神井裕行	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
21	金欠部長コスイネン	三宅直子	鴫野　彰	鴫野　彰	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
22	魔法責せイッパツマン!	久保田圭司	石川康夫	石川康夫	鈴木英二	高木敏夫、多賀一弘
23	合体不能! 逆転王	高山鬼一	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
24	消えたホームベーサー	小山高男	鴫野　彰	鴫野　彰	井口忠一	井口忠一、貴島優子、鈴木喜子
25	こまった!大コマ回し	海老沼三郎	石川康夫	石川康夫	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
26	シビビーン大変身	小山高男・久保田圭司	鴫野　彰	鴫野　彰	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲
27	地球の底で大激戦!	高山鬼一	丸輪　零	石川康夫	鄭　雨英	朴　仁炯、李　成燦
28	見よ 逆転サンパツマン	海老沼三郎	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
29	幽霊屋敷は大にぎわい	久保田圭司・小山高男	鴫野　彰	鴫野　彰	鄭　雨英	朴　仁炯、李　成燦
30	シリーズ初! 悪が勝つ	小山高男	うえだひでひと	うえだひでひと	井口忠一	井口忠一、高木敏夫、多賀一弘、香川　浩
31	登場! 新イッパツマン	小山高男	笹川ひろし	うえだひでひと	二宮常夫	貴島優子、鈴木喜子、波戸根良昭 塚本あつし、松原徳弘

話数	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督・原画作監	原画
32	イッパツマンの大秘密	小山高男	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
33	モンタージュで御用だ	三宅直子	丸輪　零	鴨野　彰	鄭　雨英	朴　仁炯、李　成燦
34	ケッパレ研修悪トリオ	佐藤和男	石川康夫	石川康夫	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲
35	転職失敗！ コスイネン	高山鬼一	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
36	おまえは何者？ 球四郎	佐藤和男	鴨野　彰	鴨野　彰	鄭　雨英	朴　仁炯、李　成燦
37	スパイにされた2-3	佐藤和男	石川康夫	石川康夫	井口忠一	井口忠一、林　和夫、高木敏夫
38	ミスターX見つけた！	小山高男	田代文夫	田代文夫	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲
39	大ピンチ！ 捕われた豪	海老沼三郎	丸輪　零	石田昌久	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
40	仲人はコスイネン夫妻	高山鬼一	鴨野　彰	鴨野　彰	二宮常夫	貴島優子、鈴木喜子、波戸根良昭 塚本あつし、松原徳弘
41	助っ人オタスケマン	小山高男・中　弘子	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
42	暴かれたハルカの秘密	佐藤和男	古川順康	古川順康	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
43	負傷！ 狙われたハルカ	小山高男	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
44	ああ ハルカと豪の秘密	小山高男	鴨野　彰	鴨野　彰	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲
45	コルドー会長の謎の島	小山高男	古川順康	古川順康	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
46	ムンムンの恋の終り	佐藤和男	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
47	初夢コスイネン四変化	小山高男	うえだひでひと	うえだひでひと	鈴木英二	林　和夫、高木敏夫
48	78歳 ムンムン快調	小山高男	鴨野　彰	鴨野　彰	二宮常夫	貴島優子、鈴木喜子、波戸根良昭 塚本あつし、松原徳弘
49	球四郎は死んでいた	小山高男	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
50	ハルカの部下 ミンミン	小山高男	笹川ひろし	香川　豊	鈴木英二	鈴木　満、本多　哲
51	謎の飛行物体をさがせ	高山鬼一	小島正幸	鴨野　彰	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
52	コルドー監督の迷映画	小山高男	笹川ひろし	うえだひでひと	二宮常夫	貴島優子、鈴木喜子、波戸根良昭 塚本あつし、松原徳弘
53	裏切ったイッパツマン	小山高男	植田秀仁	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
54	ああ結婚 ハルカと豪	小山高男	鴨野　彰	香川　豊	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
55	襲われたハネムーン	小山高男	小島正幸	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄
56	わかるか 球四郎の正体	小山高男	鴨野　彰	鴨野　彰	鈴木　満	鈴木　満、本多　哲
57	コルドーの意外な正体	小山高男	鴨野　彰	津田義三	鄭　雨英	朴　仁炯、金　仁栄
58	大逆転！ 愛ゆえの勝利	小山高男	うえだひでひと	小島正幸	和泉絹子	田口正二、松下佳弘、時矢義則、鈴木幹雄

■DVD制作スタッフ

プロデューサー：川瀬浩平（パイオニアLDC）／DVDディレクター：川綱俊治（キュー・テック）／BOX＆ジャケットディレクター：伊平崇耶／パッケージコーディネーター：青木 裕（パイオニアLDC）／アートディレクション：坂井ヒロミ（CUiR WORKS）／解説書構成・執筆：谷澤光一（BEANKIDS）、ライター：ぽろり春草（スタジオ春草）／SPECIAL THANKS：吉田昇一（タツノコプロ）、長見敏子（タツノコプロ）

■参考資料

タイムボカン全集（ソフトバンク）／タイムボカン全集２悪の華道（ソフトバンク）／タツノコプロアニメ大全史（辰巳出版）／ぶたもおだてりゃ木にのぼる（ワニブックス）／ロマンアルバムAnimageアニメポケットデータ2000（徳間書店）／押井守全仕事　増補改訂版（キネマ旬報）／前略、押井守様。（フットワーク出版）／タイムボカン名曲大全（ビクター音楽産業（現：ビクターエンタテインメント））

PIBA-1321